平成31年3月14日

午前10時00分開会

1 議事日程

- 第1 議案第112号 平成31年度御船町一般会計予算について
- 第2 議案第113号 平成31年度御船町国民健康保険事業特別会計予算について
- 第3 議案第114号 平成31年度御船町介護保険事業特別会計予算について
- 第4 議案第115号 平成31年度御船町後期高齢者事業特別会計予算について
- 第5 議案第116号 平成31年度御船町緑の村運営事業特別会計予算について
- 第6 議案第117号 平成31年度御船町公共下水道事業特別会計予算について
- 第7 議案第118号 平成31年度御船町情報通信基盤施設運営事業特別会計予算について
- 第8 議案第119号 平成31年度御船町水道事業会計予算について

2 出席議員は次のとおりである（13人）

1番 清水 聖 君	2番 森田 優二 君
3番 岩永 宏介 君	4番 中城 峯雄 君
5番 福永 啓 君	6番 田上 忍 君
7番 池田 浩二 君	8番 塚本 勝紀 君
9番 田中 隆敏 君	10番 沖 徹信 君
11番 井本 昭光 君	12番 岩田 重成 君
13番 藤川 博和 君	

3 欠席議員（なし）

4 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名（1人）

事務局長 福本 悟 君

5 説明のため出席した者の職氏名（17人）

町	長	藤木正幸君	御船町教育長	本田惠典君
総務課	長	吉本敏治君	企画財政課長	坂本幸喜君
税務課	長	上村欣也君	町民保険課長	宮崎尚文君
こども未来課	長	田中智徳君	福祉課長	西橋静香君
健康づくり支援課	長	本田太志君	農業振興課長	藤野浩之君
商工観光課	長	作田豊明君	建設課長	野口壮一君
学校教育課	長	坂本朋子君	社会教育課長	宮川一幸君
環境保全課	長	緒方良成君	会計管理者	福田敏江君
監査委員		山下誠雄君		

~~~~~ ○ ~~~~~

午前10時00分 開会

○議長（藤川博和君） 本日の会議を開きます。

昨日の質疑の中で、発言の申し出がありましたので、発言を許します。

○こども未来課長（田中智徳君） 先日の沖議員からのみるく病児保育室の質問について訂正がありますので、訂正をさせていただきます。先日午前中、事前に電話予約をすれば午後からの受け入れは可能と私が申し上げましたけれども、こちらは完全登録、完全予約制ということで、午前9時までに電話を入れないと、午後からの受け入れもできないということになりました。訂正してお詫び申し上げます。

○議長（藤川博和君） 沖君、よございますか。

○10番（沖 徹信君） はい。

○健康づくり支援課長（本田太志君） 昨日の岩永議員からの集団・地区健康教育講師謝金の質問に対して、補足と訂正をさせていただきます。

まず、188ページですけれども、健康づくり地区推進員研修会講師謝金につきましては、健康づくり支援課が繰り返し行う研修会に対しての講師謝金でございます。193ページの集団・地区健康教育講師謝金ですけれども、こちらはまず、「集団・地区」となっておりますけれども、正しくは「集団と個別の教室」でございます。集団の健康教室におきましては、11地区の健康づくり地区推進員が中心となり委託運営し開催する健康教室の講師となっております。

同じく、健診・受診の際の健診結果説明会での講師謝金となります。これにおきましては、健診・受診後、個別の疾病や特性や個人の生活習慣等を把握し、改善する支援に対する個別の人の講師謝金になります。

○議長（藤川博和君） 岩永君、よろしいですか。

○3番（岩永宏介君） はい。

○町民保険課長（宮崎尚文君） 先日の池田議員の質問の中で、マイナンバーについての答弁で、お答えさせていただきたいと思います。

マイナンバー制度導入により社会保障や税に関する事務の統一化が図られるために、所得状況がより正確になるために、社会保障や税の給付と負担の公平化などが図られるだろうと、それができるものとなっております。具体的に申しますと、行政機関によるいろいろな手続きの際に、住民票とか所得証明書の提出が不要となります。

○議長（藤川博和君） 池田君、よろしいですか。

○7番（池田浩二君） これで、情報の漏えいというのは、漏えいの可能性というのは、ありませんか。

○町民保険課長（宮崎尚文君） お答えします。

マイナンバーカードを作成されて、それに暗証番号、6桁の暗証番号、ローマ字と数字を組み合わせた6桁の暗証番号、2つの暗証番号を本人が、この暗証番号を使ってしか使用できないので、情報漏れいは、国と町との連携の中で、暗号化してやり取り部分があり、個人番号自体が飛び交うというものではありませんので、漏えいは防いでいくものと思います。

○7番（池田浩二君） では、この漏えいはないということですね。それと、昨日は通帳を把握するためと答弁されたですね。それはそれでよろしいですか、そのままで。

○町民保険課長（宮崎尚文君） 将来的には預金通帳の口座番号とマイナンバーとの連携もとのものと考えています。

○議長（藤川博和君） よかですか。

○7番（池田浩二君） はい。

○農業振興課長（藤野浩之君） 昨日の当初予算の審議の中で、岩永議員より菊池農業高校への負担金についてということで質問があっていました、後で調べて報告しますということでしたので、報告をいたします。

昭和40年に菊池農業高校が文部省の農業経営体育成校ということで指定を受けております。と同時に後援会もそのとき組織化されております。その後援会の会則の中に、会員というところで、生徒の在籍する市町村が会員となるということになっております。現在御船町から菊池農業高校に生徒が行っているということで、御船町もその会員であるということで、その会費の負担金という形での予算計上でした。

○議長（藤川博和君） よございますか。

○3番（岩永宏介君） ありがとうございます。

○建設課長（野口壮一君） 昨日の質疑の中で、田中議員からの質疑の中で、都市計画の決定の期日を平成3年ということでお伝えしていましたが、正確には平成4年3月30日に御船町の都市計画は決定のときであります。訂正してお詫び申し上げます。

○議長（藤川博和君） 田中君、よございますか。

○9番（田中隆敏君） はい、よかです。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第1 議案第112号 平成31年度御船町一般会計予算について

○議長（藤川博和君） 議案第112号、「平成31年度御船町一般会計予算について」。

歳出について、担当課長の説明を、款・項・目の順で求めます。8款、消防費について説明を求めます。

○総務課長（吉本敏治君） それでは、予算書の91ページからになります。8款、消防費。1項、消防費。1目、非常備消防費です。3,449万2,000円。主なものにつきましては、今年度からここに職員1名分の人件費を上げております。それと、19節の負担金補助及び交付金になるものとして、消防補償等事務に関する負担金として976万円を計上しております。

次に、92ページをお願いします。2目の消防施設費で7,291万円。主なものとしましては、工事請負費、地域防災拠点施設の建築工事に6,156万円となります。

○建設課長（野口壮一君） 同じく92ページをお願いします。3目、水防費、今年度の予算は88万6,000円です。主なものは11節、需用費、水防倉庫資機材の破損に係る消耗品費63万4,000円です。

○総務課長（吉本敏治君） 同じく、4目の災害対策費1,566万円です。主なものにつきましては、まず災害待機時における職員の時間外勤務手当として574万円、それから93ページです、12節、役務費、災害対策費用保険料として107万9,000円を計上しております。

次に、5目の常備消防費です。主なところは、常備消防費、上益城消防組合に対する負担金を常備消防費として別に目を立てております。2億3,317万8,000円です。消防費に対する負担金となります。

以上で8款の説明を終わります。

- 議長（藤川博和君） 質疑を行います。8款、消防費について質疑はありませんか。
- 2番（森田優二君） 先日の説明の中で、来年度はポンプ等機械類の購入を取り止めて、作業服を、編み上げ、安全靴まで一新するという話が出ていたと思いますけれども、もう1回そこらあたり詳しい説明をお願いします。
- 総務課長（吉本敏治君） その件につきましては、これまでも火災の現場ですとか災害の現場等を含めまして、消防団員がけがをしてしまったと、そういったことの事例が発生をしております。その関係もありまして、平成31年度には、すべての団員に係る作業服それから編上靴、こういったものを用意して消防団員の災害時の対応の身の安全を図ることとしております。ただ、当初予算において、骨格予算となって、その部分については今回は計上しておりません。6月の肉付け予算でそこを計上する予定としております。総額で、約1,000万円ぐらいになろうかと思っておりますけれども、6月の補正予算で計上させていただきたいと思っております。
- 2番（森田優二君） この件については、私も消防関係で一般質問でしてございました。特に、以前は底に鉄板が入っている長靴でした。けれども、これも火事現場あたりで釘が刺さったり、また横から刺さるという、そういうのがかなりあってございました。そういったことを含めて、ぜひとも安全靴に替えてほしいということも言っていたと思うのですけれども。そういうことで安全靴まで今度準備するというこの話だと思っております。やはり現場で団員が仕事をする上に当たっては、あくまでも安全であるということが第一だと思います。そういったことで、よろしくお願ひしたいと思っております。

それから、もう1つです。先月の1月だったですか、玉名市の現場で分隊長が1人けがをしておりますけれども、夜の暗い中での作業になっております。そこらあたりも安全確保、要するに投光器をつけるとか、もう1つはヘッドライトをつけるとか、そういったところも今後考えてほしいと思っております。

それと、水防費の件ですけれども、左岸側、特に町うちですね、こちらのほうには前に水防倉庫がありましたが今はありません。そこは、現在は水防のそういった倉庫的なの

はどのようなになっておりますか。

○建設課長（野口壮一君） 左岸側の水防の対象として、今は落合の倉庫のほうが兼ねているという状況です。組織的に言うと左岸側にも必要だということは、私たちが悩んでいることではあります。その辺は今後の水防計画の中で見直しをしていきたいと思えます。

○2番（森田優二君） このことも、もう以前から私も一般質問してきました。やはり、一丁目、桜坂からの水、これで土のうをかなり積んだこともあるし、また辺田見もやはり大雨のときは土のうを持っていっております、今でも。そこを考えると、やはり左岸側にも防災倉庫というか、もうコンテナにそういったいろんな土のうとかスコップとか入れておけばいいと思えます。そういったことで、今後はぜひとも検討してもらいたい。避難所に関しては、憩の家かな、あそこは来年度からは避難所としても使えるということになっておりますけれども、それと同時に、水防倉庫、要するに雨のときの対応ができるようにぜひとも計画をしてほしいと思えます。

○4番（中城峯雄君） 説明書の297ページの地域防災拠点施設工事の設計業務工事請負費が3棟提示されておりますけれども、場所はどこで、この拠点とはどんな機能を持たせるのでしょうか

○総務課長（吉本敏治君） お答えします。

地域防災拠点施設整備事業ですけれども、これは主に消防詰所あるいは格納庫の建設ということになります。平成31年度で計上しておりますのは、8分団3班の下高野、8分団4班の甘木、それから9分団3班の秋只です。これらに関する経費ということになります。

○4番（中城峯雄君） 先般から議論がありまして、詰所分のことですね。はい、わかりました。

それと305ページで、上益城消防組合の負担金、今年度は2億3,300万円計上されておりますけれども、昨年度はゼロですけれども、その関連は。

○総務課長（吉本敏治君） 先ほど少し触れましたけれども、5目の常備消防費というのは、今年度、平成31年度から新たに目を設置したものであります。昨年度までは、非常備消防費の中に上益城消防署への負担金も含めておりました。しかし、非常備消防費というのは、いわゆる消防団関係の経費です。常備消防費というのが消防署に関する経費です。あるいは、市内なんかを見ますと、消防局です。そういった常時消防活動、そういった活動に当

たる経費ということで、常備消防費となります。今回は、その常備消防費に対する予算を計上して負担金として出すとしております。

○10番（沖 徹信君） 昨日も消防団員報酬ということで書いてありますけれども、2,000円の100人ということですが、これは出動したときの報酬というか、日当なわけですか。

○総務課長（吉本敏治君） 今のは289ページの報酬ということで、よろしいですか。

○10番（沖 徹信君） はい。

○総務課長（吉本敏治君） 2,000円×100人と当初予算で計上しています。これは報酬になりますので、手当ということではなくて、年間の報酬額ということで、一律お支払いをするという額になります。

○10番（沖 徹信君） ということは、100人を非常備消防団員として辞令を出したいということですか。そして、その人たちが、何らかの災害があったときの出動手当というのはないわけですか。

○総務課長（吉本敏治君） この100人といいますのは、ある程度100人まで枠を掲げているということでありまして、おそらくこれ以内になるだろうとは思っております。

それともう1つ、手当の件につきましては、火災ですとか各種災害等に対して、地域での災害対応活動に当たっていただいた場合には、当然、その日の手当ということで、これは別に支給するということとしております。

○10番（沖 徹信君） 100人組んであるから100人という意味と私が聞いたわけではないわけです。100人までは余裕として集めたいという場合には20万円の予算を組んであるということですか。でしたら、自然災害、何らかの災害があったときの出動手当、それがないわけですよ、今。骨格だからと言えればそれまでですが、その分が見当たらなかったもので、そこら辺はどうなっているかということと、消防団員の災害等の出動に対しては今幾ら支払うわけですか。

○総務課長（吉本敏治君） 今は2,000円を支払っています。

○10番（沖 徹信君） そしたら、機能別団員の方々に出動してもらったときも、それが基準になるわけですか。

○総務課長（吉本敏治君） はい、その予定でおります。

○10番（沖 徹信君） はい、わかりました。

○議長（藤川博和君） ほかに質疑はありませんか。

○5番（福永 啓君） 1点だけ、消防費の予算としまして、消防団員の優遇措置に関する予算が見当たらないのですね。私どもが議会で消防団から聞き取りをしたりあおぞら会議をしたりとかしてお話をお伺いしております。その中で、消防団の方から何か消防団に入っていることによってメリットがあったのです。もう少し消防団員に誘いやすいし、自分の相手、パートナーに対しても、家族とかそのあたりに対しても説明しやすいので、そういうものを検討してくれませんかという提案がありました。この場合もそれに同一だと思いますが、今回の予算案、もしくは今後の予算案は特に、その提案に沿った優遇措置等を設けることを検討しているかどうか、お答えください。

○総務課長（吉本敏治君） 消防団に対する優遇措置については検討していることは事実であります。先行して行っている団体等の情報を今収集をしておりますけれども、まず、どういった優遇措置を与えるか、これが一番の問題だろうと思っております。できますならば、町内にある店舗ですとか飲食店、そういったところにも御協力をお願いして、消防団員に対する優遇措置等をできないかということで、今検討しておりますけれども。

まず、身分証として、消防団員である証としての身分証を渡すことになろうかと思えます。当然それには今言いました経費が必要になります。それから各店舗に対する協議を行いまして、何らかの優遇措置を設けていただけるということであれば、その消防団員に対する優遇措置を行っている店舗としての行動をしていただかなければなりませんので、のぼり旗ですとか、そういったものを建てる必要があると思えます。それに対しても、これは当然町から、それは作成して動いていただくという措置が必要になろうかと思えますので、それに対する予算も必要になってくると思えます。ですから、初期の段階で初期投資として当然予算が必要になってくると思えます。

ではまずは、我々が考えている優遇措置と消防団がこういったことがあったらいいなという意思の疎通ができないとまずできないと思っておりますので、そこらあたりは消防団本人あるいは家族、そういったところからの何らかのアンケート調査等によっての団員が望む優遇措置、そういったものを1回意見として、アンケート等によって徴集する必要があるだろうと思えます。それをまとめた上で、ではどういう可能性があるのかを探っていく必要があると。そういう段階的に考えているところであります。

○5番（福永 啓君） 一般的に行われているものが果たして利用されているのか。そういう

のはよくわからないので、そのあたりの調査をした上でしていただきたいと思うのですが。

あと1つ、団員の優遇措置ではなくて、団員の方がおっしゃったのは、自分の例えば奥さんとかに「ああ、これがあるけん、ちょっと消防団に行っておいで」とか、送り出してもらえるような、そういうのがあったらいいねと。企業もそうです。それが所属している企業から出ていきにくいと。でも、企業にも優遇措置があるから、うちの社員を消防団員に入れようかとか、そういう観点から、本人の意思及びその前に、家族なり企業なり、そのあたりもきっちりとアンケートを取って調査した上で、一番有効かつ財政的に有利な優遇措置を設けていただきたいと思います。

○議長（藤川博和君） ほかに。

○10番（沖 徹信君） 消防団員、機能別団員、そこら辺の福祉厚生はどうなっていますか。

○総務課長（吉本敏治君） 機能別団員も条例定数の中に入れますので、通常の団員と同じような扱いになります。ですから、災害の補償だったり、そういったものについても当然町で掛金として掛けるということになります。

○10番（沖 徹信君） それでは、団長、副団長、そこら辺のいろいろな交際費というのですかね。通常点検が終わって、1分団が優勝した。1分団にお疲れさまでしたという形で、全部分団を回ったりなんか、今もやっていると思いますけれども、そこら辺のお樽代というか、そこら辺は個人負担なのですか、町の消防の交際費というか、そこら辺で払っているのですか。

○総務課長（吉本敏治君） 団長の交際費というのは、この予算の中には設けておりません。それで、結果的には団長の報酬であったり、あるいは分団に対する交付金等がありますので、その辺の中で、言えば団長個人の手出しで持っていたらいいというのが実情だと思っています。

○10番（沖 徹信君） 簡単に言えば、団長、副団長は自費で分団を回るとのことですね。

○総務課長（吉本敏治君） 運営費の中に交付金というのを設けております。それで、各分団への交付金そういったものをまとまっていると。本部としての交付金の予算はこの中には入れております。その中での運営を行っていただいているという状況です。

○10番（沖 徹信君） だから、交付金で運営をしているなら、私費は使わなくていいわけです。だから、私が言いたいのは団長、副団長、町の幹部とだけいただければ結構ですけども、そこら辺を、結構会社を休んだりとか、暇暮らした以上に出費があるわけです、

団員から見えない部分の出費が。だから、そこら辺はやはり、そういうお金で見れる分は見てやって、団長、幹部辺のお金の負担の軽減にはつなげていただきたいと思います。分団だったら分団交付金の中で、前期・後期とかありますけれども、そこら辺を分団が片一方を取って分団の運営費に充てているという形になりますので、そういうところが多いと思います。そういう形で、分団長、副分団長辺の個人負担が昔に比べれば大分軽減されていると思いますので、そこら辺を、町の幹部になった人たちも、やはり暇暮らして個人的な金の支出というのをしたでは、それはもうだんだんやり手がないと思いますよ。そこら辺も、できる限りのことは考えてやってほしいと思います。

○総務課長（吉本敏治君） 基本的には、295ページに記載をしております運営交付金、この中に本部もこの中に含まれております。運営交付金として333万2,000円を計上しております。この中に、本部に係る経費としては予算化をしております。団長あるいは副団長という身分で行っていただく場合には、この交付金の中から使っていただくとしております。

○12番（岩田重成君） 今度、上益城消防組合へ2億3,000万円が計上されております。今、上益城消防署の中で、御船町出身の職員は何人おられますか。

○総務課長（吉本敏治君） すみません、そこまでは把握しておりません。

○12番（岩田重成君） なぜかといいますと、この前4分団が操法で優勝しました。4分団の中に職員が2名います。大変助かりました。この2名が順番にいつも練習に来ていました。そして指導していました。おかげで今度優勝ができました。そこで、熊本県で優勝したことは御船町としても初めてでございます。できましたら、やはりこの町内から、御船町から職員に採用するときはずいとも、試験もございますが、希望して、そして職員になっていただきますよう申し上げる次第でございます。

○総務課長（吉本敏治君） ほかに質疑はありませんか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤川博和君） これで質疑を終わります。

次に、9款、教育費について説明を求めます。

○学校教育課長（坂本朋子君） 9款、教育費について御説明申し上げます。議案書93ページをお願いいたします。9款、教育費。1項、教育総務費。1目、教育委員会費189万1,000円です。教育委員4名分の報酬及び上益城郡教委連絡協議会の負担金が主なものとなっています。

94ページをお開きください。2目、事務局費5,891万1,000円です。主なものとして、96ページをお願いいたします。19節、負担金補助及び交付金82万6,000円になります。

続きまして、3目、教育振興費480万6,000円です。主に、外国語指導業務委託料480万1,000円となっております。

続きまして、2項、小学校費。1目、学校管理費1億4,620万2,000円です。こちらは町内6小学校分の運営に係る経費となります。主なものとして、97ページをお願いいたします。11節の需用費2,429万4,000円、主に光熱水費となります。98ページをお願いいたします。14節、使用料及び賃借料2,595万8,000円、各小学校に配備してありますタブレット端末等のリース料が主なものとなっております。99ページをお開きください。15節、工事請負費966万円となっております。主なものとしては、木倉と滝尾小学校のトイレ改修工事などを計上しております。18節、備品購入費691万7,000円です。主なものとして、児童用机・椅子購入費447万3,000円となっております。

続きまして、2目、教育振興費3,669万8,000円です。主なものとしましては、13節、スクールバス運行委託費1,941万3,000円、滝尾小学校と七滝中央小学校のスクールバス運行委託費です。100ページをお願いいたします。20節、扶助費の就学援助費1,455万8,000円となっております。こちらは、通常の要保護・準要保護世帯のほか、熊本地震被災者対応の援助も継続の予定となっております。

続きまして、3項、中学校費。1目、学校管理費3,762万2,000円です。主に、11節の需用費、光熱水費など986万1,000円となっております。

103ページをお願いいたします。2目、教育振興費2,461万円です。主なものとして、13節のスクールバス運行委託料921万6,000円、19節の負担金補助及び交付金383万4,000円となります。こちらは路線バスに係る通学定期購入費負担金が主なものです。20節、扶助費のバス通学援助費は1,097万2,000円となります。小学校同様、通常の要保護・準要保護世帯のほか、熊本地震災害に係る援助も継続となっております。

○社会教育課長（宮川一幸君） それでは引き続き社会教育課の関係について説明をいたします。104ページをお願いいたします。5項、社会教育費。1目、社会教育総務費4,549万3,000円です。主なものとしまして、1節の報酬費から9、11、12、18節の括弧書きの（地域未来塾）と（放課後子ども教室）がページを合わせまして360万2,000円です。次に、19節の負担金補助及び交付金で、青少年健全育成町民会議負担金112万円が主なものとなっ

ております。

続きまして、106ページをお願いします。2目、公民館費462万6,000円です。主なものは、11節、需用費、分館電気料107万4,000円と、19節、負担金補助及び交付金で、分館管理運営負担金106万2,000円が主なものとなっております。

次に、3目、カルチャーセンター運営費3,113万3,000円です。主なものは、11節、需用費で、光熱水費888万2,000円と、13節、委託料で清掃管理業務委託料498万4,000円と、舞台技術業務委託料741万円が主なものとなっております。

次に、108ページをお願いします。4目、図書館費376万9,000円です。主なものは、非常勤職員報酬と、18節の備品購入費、図書購入費の64万5,000円です。

次に、109ページをお願いします。6項、保健体育費。1目、保健体育総務費1,851万8,000円です。主なものは、110ページの13節、委託料、健康教室委託料78万5,000円と、19節の負担金補助及び交付金で、郡体育協会負担金134万1,000円です。

次に、2目、スポーツセンター運営費3,234万4,000円です。主なものは、13節、委託料のスポーツセンター指定管理者委託料3,204万4,000円です。

次に、3目、体育施設費625万3,000円です。主なものは、111ページの13節、委託料277万6,000円で、町民グラウンド指定管理者委託料と、15節、工事請負費153万2,000円です。これは、田代東部社会教育センターの体育館の屋根のシートの張り替えと、グラウンドにある遊具の撤去を行う予定でおります。

○学校教育課長（坂本朋子君） 続きまして、111ページ、5目、学校給食費8,134万円です。

主なものとしましては、11節、需用費の光熱水費1,351万6,000円、13節の委託料621万2,000円。こちらは給食の配送業務に係る経費のほか、施設管理や衛生管理に係る経費等を計上しております。

○社会教育課長（宮川一幸君） 改めまして、社会教育関係を説明します。112ページをお願いします。7項、文化財費。1目、文化財総務費1,481万3,000円です。主なものは、113ページの14節、使用料及び賃借料、熊本地震災害に係る発掘作業用重機借上料84万3,000円と、19節、負担金補助及び交付金で地域コミュニティ施設等再建支援事業交付金が1,000万円です。

次に、2目、恐竜化石調査費847万7,000円です。主なものは、非常勤報酬と、114ページをお願いします、使用料及び賃借料で調査研究用の機材リース料91万8,000円です。

次に、3目、恐竜博物館運営費8,808万3,000円です。主なものは、11節、需用費、光熱水費519万6,000円と、13節、委託料805万1,000円は恐竜博物館の各施設保守点検委託料及び清掃料となっています。116ページをお願いします。16節、原材料費、ミュージアムショップに関する材料費896万円と、19節、負担金補助及び交付金で特別展実行委員会負担金1,500万円です。

次に、4目、自然史教育事業費432万4,000円です。主なものは、非常勤報酬と、11節、需用費の消耗品87万3,000円です。

以上、9款の説明を終わります。

○議長（藤川博和君） 質疑を行います。9款、教育費についての質疑はありませんか。

○1番（清水 聖君） 滝尾小学校、木倉小学校のプールの修繕費とあります。議案書の97ページです。それはどんな修繕なのでしょう。

○学校教育課長（坂本朋子君） 修繕費という、トイレの和式のトイレを洋式に変えるというところで、今年は木倉小学校と滝尾小学校で工事をさせていただこうと思っております。

○1番（清水 聖君） 非常に不衛生で大変でした。非常にありがたいと思います。

プールはどうでしょう。

○学校教育課長（坂本朋子君） プールにつきましては、今年は滝尾小学校のプールのどうしても排水がうまくいかないということが前々からの懸案でございましたので、今年は滝尾小学校を計上しております。

○1番（清水 聖君） 最終的には子どもがバケツでくみ上げて、大変な思いをして、設立当時からだけんですね、私が議員になって、毎年、毎回校長先生が替わられるたびに、その課題を言っておられました。もう本当に嬉しく思います。

それから、国道445号線、滝尾小学校の前を通る際に、40キロなのですが、路線を車が非常にスピードを出して通るということで、警察にも相談に行きました。そしたらこれは警察ではなくって公安委員会とか、そういうことを言われて、警察からは取り締まりを何回か行って、非常に速度も落ちてきましたということでした。それで、今回、山都西まで高速道路が開通しましたので、10分の2ぐらいしか国道を通らなくなりまして、非常にそれは解消されました。本当に、子どもたちの安全が保たれたと私も喜んでおります。

それで、現在マミコウロードをダンプカーが非常に、一日中あそこは通りまして、玉虫の入り口に横断歩道があります。そこから玉虫の本村というか、そこまで行くところを、

カラー舗装をしてほしいという要望は学校から出されてなかったでしょうか。

○学校教育課長（坂本朋子君） 通学路安全点検の際に出されておりました。私たちも関係者の方と一緒に見にいきました。ちょうどピークになっておりまして、向こうから上ってくるほう、こっちから上ってくるほう、双方が踏み込んでから上ってきますので、確かに危険ではあるのですけれども、今のところは予算化までにはたどり着いておりません。

○1番（清水 聖君） 子どもたちの安全を守るために、なるべく早くしていただきたいと思っています。

○4番（中城峯雄君） 308ページですけれども、英語教育指導でふるさと納税と記載してあるのは、ふるさと納税を充当したという意味でしょうか。

○企画財政課長（坂本幸喜君） ふるさと納税で、財源としてふるさと納税応援基金を財源としているという、そのとおりです。

○4番（中城峯雄君） それと、ソフト事業にも備品購入とかもされていますので、ソフト事業にも充てておられるということですね。はい、わかりました。

それと、この英語教育ですけれども、町内5校の中で滝尾小と高木小の2校を選定された理由は何でしょうか。

○学校教育課長（坂本朋子君） 平成30年度から、英語専科の先生が一人小学校にはりついておりまして、その先生が小坂小と御船小と木倉小を巡回してご指導いただいています。残ったところの高木小と滝尾小については、英語指導の先生を町で配置していて、七滝中央小学校につきましては、昨日出てきました英語指導主事の方に主に見ていただいているようにしています。

○4番（中城峯雄君） 316ページです。外国語指導業務委託料が480万円計上されていますけれども、この方でしょうか。

○学校教育課長（坂本朋子君） お答えいたします。

外語センターの方は、専属職員として小学校の教諭として入っていかれますので、こちらに委託料に計上してあるのは、人材派遣的な形の使用機関にALTの方を派遣していただいているということです。活動のベースを中学校にも置いていただいて、こっちで小学校を巡回していただいている、その活動内容となっております。

○4番（中城峯雄君） これは、外国人の方ですか。そうですね。

○学校教育課長（坂本朋子君） アメリカの方です。

- 4番（中城峯雄君） はい、わかりました。
- 6番（田上 忍君） 予算説明書で行きます。おそらく321ページになるかと思うんですが、先ほどの説明で、タブレット端末ということで出ていたのですが、タブレット端末の活用方法を、どういうことをやっていくかを教えてください。
- 学校教育課長（坂本朋子君） 学校の授業の中でよく現在使っていらっしゃるのですが、例えばこの前木倉小学校の授業参観に行ったときには、最後の授業のときに動画を撮って、自分たちのノートの確認をして、それを何かまた、反省させ、次にまたやり直すという工夫をした使い方をされておられます。
- 6番（田上 忍君） 今のは、動画撮影して、自分のを確認すると、あとはタブレットなので、おそらくネットをつないでやっているかと思えますけど、そういうところはどうふうにやられておりますか。インターネットを使っての、何かいろいろ活用とかもやっているのではないかと私は推測したのですが、そういうのはやってないのですか。ただ、動画を撮る、そのだけのためにやっているのですか。
- 学校教育課長（坂本朋子君） 各教室は、Wi-Fiが使える環境も取ってありますので、当然インターネットも活用されていると思います。
- 6番（田上 忍君） だから、インターネットを使ってどういうことをやっているか。もう一步踏み込んだ説明をしてください。
- 教育長（本田恵典君） 田上議員がお詳しいのだらうと思うのですが、主に社会、理科等で資料の収集です。それで、広い意味での資料の収集をしませんと、大変難しいところがありますので、これが簡単にできるのがタブレットあたりではないかなと思って。そういう活用が一番多いのではないかなと思っています。
- 6番（田上 忍君） はい、わかりました。これからまた有効に活用してほしいと思います。それから、325ページに、修繕費が各学校に出ています。この修繕費の費用を見ますと、各学校もあっていますし、これは学校から要望があったもので計上されているのかを、まず教えてください。
- 学校教育課長（坂本朋子君） 大きいものにつきましては、補助金等で計上させていただくのですが、学校の通常の小さい修繕です。古い学校が多うございますので、細々とした修繕が必要になりますので、ある程度は学校の予算の範囲内でできる程度でということをつけてあります。

○6番(田上 忍君) 古い学校はそうやって細々あるというふうに、私もそれはわかります。だから、例えば木倉小で29万8,000円というのでいいと思うのです。ただ新しい、比較的まだ建って間もない、例えば御船小学校でも20万円ついているのですが、そういう新しい学校でもあるのですか。

○学校教育課長(坂本朋子君) 学校は、御船小学校は新しいのですけれども、中でもあります。それに体育館等でもあります。

○6番(田上 忍君) わかりました。そういうところの修繕費、結構古いので、この辺の予算はもう少し増やした方がいいのではないかなと思ったところです。

続いて349ページに、学校評議員等保険料とあるのですが、もう学校評議員というの
はなくなったと聞いたのですが、これはどうなのですか。

○学校教育課長(坂本朋子君) 申し訳ありません。ここは、説明名称を変えるときに間違えて、そのままになってしまっております。学校評議員から運営協議会に移行することになっておりますので、そちらはすみません、修正をしそこねているところです。すみません。

○6番(田上 忍君) だから、はっきり言って、どういうふうになるのですか。結論をもう1回お願いします。

○学校教育課長(坂本朋子君) 学校評議員制度から学校運営協議会に移行することになっておりますので、その際に文言の改正する予定でございましたけれども、ここだけが漏れてしまっていました。ミスであるということです。申し訳ありません。

○6番(田上 忍君) 要するに、これは予算というより記載ミスということですね。昨日も一昨日もあったわけなのですけれども、これって、昨日は商工観光課で木倉というところが上野になって、そしてほかにも結構記載ミス、要するにこの議案書を作って、担当の係長、それから課長、担当も見ていると思うのですけれども、そういうチェック体制はどうなっているのですか、町長。

○町長(藤木正幸君) 係長が中心となって係を担当して、それから課長、そしてこちらに来るという形になっています。そのあたりはチェックができなかったことをお詫びしたいと思います。

○6番(田上 忍君) 今後は、その辺よろしくお願ひしたいと思います。

それから、次373ページに地域未来塾の例がありました。現在はこれは中学校だけなの
でしょうか。

○社会教育課長（宮川一幸君） これについては御船中学校の大体今は3年生を中心に、去年から今年につながりでやっています。

○6番（田上 忍君） 小学校まで拡大するとか、そういう予定というか考えはあるのでしょうか。

○社会教育課長（宮川一幸君） 今年の予算を立てたときも、来年度の予算でも一応中学校をメインに考えております。今のところ小学校までは考えておりません。

○6番（田上 忍君） では、これについて教育長はどうお考えですか。

○教育長（本田恵典君） 予算の範囲もございますのですが、中学校での執行予算がもう精いっぱいというところがございます。

○6番（田上 忍君） わかりました。できるだけそういう教育面には予算をつけてほしいなと思います。

続いて421ページにある、パレオプログラムとジオセミナー、これについての説明をお願いします。

○社会教育課長（宮川一幸君） まず、パレオプログラムですが、これにつきましては、恐竜博物館の年間のイベントという形で、大体パレオプログラムで昨年の実績につきましては、4月から11月ぐらいまでレプリカ作りとかアンモナイトを作ったりとか、そういったものを調べたりとか、そういったのを6講座、それと、パレオアドベンチャープログラムについても大体5月ぐらいから始めまして、3月ぐらいまでの6講座という形で、こういったのを年間通して、こういったチラシも作って、PRをしているという形でやっております。

でも、結構こういったのをやっていますので、博物館の集客にも大分寄与しているかなという形で思っています。

○6番（田上 忍君） ジオセミナーは。

○社会教育課長（宮川一幸君） ジオセミナーは、去年は高校生以上の方をターゲットに、3回3日間行っています。これについても、結構、市内のほうから御船の博物館に来られた生徒さんとかそういった方が、こういったところに参加をいただいてという状態で、結構好評になっております。高校生から、大人の方も参加されているみたいなので、こういった形をする予定でおります。

○6番（田上 忍君） わかりました。そういう好評なものはどんどん継続してほしいと思います。

最後になりますが、スクールカウンセラーとSSW、これの予算を計上されておりましたが、来年度もこれは県か何かで予算で決定してもらえるのですか。

○学校教育課長（坂本朋子君） スクールソーシャルワーカー関係は、上益城教育事務所の方と連携をとって、常に対応していただいております。町で雇う予定は今のところございません。

○6番（田上 忍君） それでは、御船町でそうやって相談できるスクールカウンセラー等は、予定してあるのですか。これは何人に来年度はなる予定ですか。何人、県がそうやって配置してくれるのですか。何人配置してくれるから、町としてはもう要らないよということで、今回予算は上げてないのではないかなと思ったのです。ですから、人数をわかるところで教えてください。

○学校教育課長（坂本朋子君） 上益城教育事務所に4名から5名程度おられますので、その中で、その先生方が相談によって対応しておられますので、その都度空いている方をお願いいたします。

○6番（田上 忍君） 私はスクールカウンセラーとSSWということでお尋ねしたのですよ。ですから、それぞれの人数を教えてください。

○学校教育課長（坂本朋子君） 今年、上益城教育事務所に何人配属されるのか、今のところまだ私どもでは把握しておりません。

○6番（田上 忍君） 何人配置されるかもわからないで、では、町としてはもう要らないよということでいいのですか。だから、県が大体これだけの予算をつけて何人配置すると。だから、町としてプラスアルファで、スクールカウンセラーやSSWは雇わなくてもいいよという判断のもとで、予算を上げないわけでしょう。その辺がわからないわけでしょう。それはおかしくはないですか、教育長。

○教育長（本田恵典君） 地震以降、かなりの人数が配置をされておりました。ところが年々減少しております。先ほども申しましたように、来年度の予測の人数がまだはっきり確定していません。ただ、御船中学校は拠点校にもなっておりますし、そしたら郡全体で何人か配置がされて、そして、週に何回来られているということがおそらく決定するのではないかなと思いますので、それがわかれば、すぐにお知らせできると思います。

○6番（田上 忍君） では、先ほど課長が言われた4～5人というのは、それはソーシャルワーカーですかカウンセラーですか。それと、あともし足りなかったら、今後補正で上げ

るとか、そういうことですよ。

○学校教育課長（坂本朋子君） 平成30年度においてはたしか5名はいらっしゃったと思います。すみません、私のほうに、今手元に持っておりませんので、そのようにしかお答えできません。

○6番（田上 忍君） その人数は、もう何度も聞いていたわけなんですけど、そのスクールカウンセラーだったのですか、SSWだったのですか。だって、この方たちは違うでしょう、守備範囲が、全然。だから、今のはSSWが4～5人おられたのですか。カウンセラーが4～5人おられたのですか。その差を答えてほしかったのです。

○学校教育課長（坂本朋子君） すみません、手元にございませんで、確認してから、また後ほどお答えさせていただきます。

○6番（田上 忍君） 手元にないというなら、ではどうして4～5人という数字は出てくるのですか。これは、全然何か、教育委員会は、スクールカウンセラーもSSWも同じように思っているのですか。

○学校教育課長（坂本朋子君） 今のは、見たことはあるのですけれども、手元に今持っておりませんので、詳しい割り振りはわかりませんので、後ほどお答えさせていただきます。

○6番（田上 忍君） はい。

○5番（福永 啓君） 教育費全般から、平成30年7月、12月付けで新学習指導要領に向けた学校のICT環境の整備の推進について、通知というものが出されていると思います。これは、新学習指導要領で必要なICT整備はこんなものですよというものがその中で示されているわけなのですが、この環境整備、通知内容を満たす環境整備は、今予算内でそれは完了できるのでしょうか。

○学校教育課長（坂本朋子君） お答えいたします。

確かに、5カ年計画というところで通知が届いております。だからなかなか厳しくて、今やっとパソコンができたところなんですけれども、それでも望まれて3クラスに1クラス分程度というのはまだ充足していない学校もございます。今年、平成30年度で一応パソコンは子ども用のが終わりましたので、平成31年度には先生用のパソコンを切り替えることになっております。どうしても、順番はその次になるのかなというのは思っているところです。

○5番（福永 啓君） これは、わかり安く言えば、体育をしますよと。体育という形もあり

ましたよ。運動場が広いですよ。サッカーするのだったら防護ネットが必要ですよという、最低限度のものを示されたというふうに文書を読めばそう書いてあるのです。パソコンも3クラスに1つ、最低限度それは必要ですよ。でも、本当は1人1台がいいですよと書いてあるのです。このように、一応、新しい教育指導要領の教育をするためには、最低限必要なのはこれだけなのだという設備は、これは必要だと思うのです。学校で授業をする以上は。財政も、する人が読まれましたか。その中にも、これは最優先で自治体に対しても対応するようにと書いてあるのですが、このあたりも考えて、今後そのICT環境整備については、きちっと対応していただきたいと思いますが、企画財政課長、いかがでしょうか。

○企画財政課長（坂本幸喜君） お答えします。

先ほど、私たちの予算を決めるとき、やはり財源は何が必要か、まず財源を探します。そして今回、この予算書の中にも提案していますふるさと納税あたりを使いましてこの財源に充てております。なるべくそのあたりは、ふるさと納税の使い道も、教育課の将来も見直し、子どもたちのためにという項目もありますので、そのあたりを使って、そういう環境整備に財源として利用させていただきたいと、整備をしていきたいと思っています。

○5番（福永 啓君） 毎年1,800億円ぐらい、1,880億円ぐらいだったですか、国がこのICT環境整備については財源をつけてあります、既に。そして、だから必ず単費は要るわけです。そこをきちっとそういうのをつけていただいて、少なくともサッカーを新しくせいやいかんわけだから、ボールとゴールとピブスと、それがなくなるときちっと授業ができませんよというのを書いてあるわけだから、それはそれです。そしてそれ以上のものに、ぜひ何か、ICT環境を推進していただきたいと思っています。

続いて324ページ、ここは御船小学校の管理費のエアコンの電気代になるわけなのですが、ほとんど変わってないんですよ、電気代。説明書の324ページです。ほかの学校を見ても、滝尾とかは別に下がってたりとかするのですが、エアコン設置ですね、今年から。それで、私どもは当然電気代が上がると思っていたのですが、この変化はないと。どこか別のところに入っていたりするのでしょうか。

○学校教育課長（坂本朋子君） エアコンを使う場合には、動力に変わります、基本料金は高くなるのですけれども、デマンド料金の対象になりますので、2年目以降、前年度の実績が一番使用料が高かったところの月の使用料金が基本料金に変わってきますので、2年

目以降には大変高くなっていくと思います。今年は何のくらいの見通しなのかというのがつかなかったもので、大体前年と同額で今年度計上しております。

○5番（福永 啓君） わかりました。それはまだほかのところにもしかしたら入っているのかなと思っていましたけれども、とりあえず、前年度末でして、来年度以降どのようになるか実績を見てから予算を計上し直すということですね、はい。

次、402ページ、給食に関する費用が上がっております。ここです、西往還の交差点のところ、旧御船小学校プレハブ給食室、これは益城町に非常に有効利用していただいております。その利用も終わったと思います。これは、いつまでにどうするのか、この予算の中には見えてこなかったもので、御説明をお願いいたします。

○学校教育課長（坂本朋子君） 西往還のプレハブの給食室につきましては、外を賃貸借をして、建物についてはリースで契約をしてありました。御船町としては、2018年度分の末で、いずれも契約は完了しております。本来であれば、その時点で撤去して更地に戻すはずだったのですけれども、おっしゃったように、益城町のほうも続けて使わせてほしいということでしたので続けて益城町で契約をなさっていると思います。それが終わり次第、リース業者も撤収する予定だったと思います。

○5番（福永 啓君） ですから、賃貸もリースも、全部もう益城町がなさっているということで、その撤去に係る費用も、今後これに予算がかかってくることはないということですよ。

中に入っている備品類、それについては、どうなるのでしょうか。

○学校教育課長（坂本朋子君） 給食センターですとか中央小学校または町内の保育園です。必要なものについては、全部引き取っていただきました。残った分については、処分をしなくてはならないことにはなっていると思います。使えるものについては益城町で使えるものは持って行ってくださいということも言っております。

○5番（福永 啓君） そうすると、若干機器の処分費用がかかるかもしれない。本当に処分するのだったら、使えるものというか、つい最近まで使っていたものですから、老人福祉施設とか健康施設とかいろんな施設があります。町内の民間も含めて、広く引き取っていただいて、1円でもそのあたりは節約していただきたいと思います。

○議長（藤川博和君） お諮りします。福永議員、まだ続きますか。

○5番（福永 啓君） はい、続きます。

○議長（藤川博和君） お諮りします。10分間休憩したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤川博和君） 異議なしと認めます。10分間休憩することに決定しました。

~~~~~ ○ ~~~~~

午前11時09分 休憩

午前11時21分 再開

~~~~~ ○ ~~~~~

○議長（藤川博和君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

○5番（福永 啓君） 続きまして411ページから、これが恐竜化石調査費となっておりますが、毎日私も行っているのですが、本格的化石の発掘調査、これは本年度もしくは新年度で予定しているのでしょうか。

○社会教育課長（宮川一幸君） 発掘調査につきましては、今後の発掘調査につきましては、来年度の予算ではまだ熊本地震からの復旧のための予算編成になっておりまして、調査は難しい状況にありますので、平成31年度は将来に向けた詳細な発掘調査の計画を練り上げることとしております。そのため、来たるべき発掘調査に向け、今後作業工程及び概算の経費を算定しております。

まず、2020年度に着手することを想定しますと、初年度に測量や用地購入等で約1,000万円ほどかかるような感じになる、必要となります。次に、2021年度には、事前の各種工事や発掘調査事業として2,000万円程度の予算が想定されるという形で今年予算のときに、別にそういった形で思っております。こうした経費につきましては、まずは町による予算化と国の科学研究費を想定していますが、科研費はかなり難しい、かなり厳しい競争となりますので、国の補助が難しい場合には、町による予算化が大事ですから、併せて寄附やクラウドファンディング等も視野に入れながら予算の確保が必要ではないかと考えているところです。

○5番（福永 啓君） むかわ町等でも全体の大きい全身化石を発掘するのに相当予算をかけているんですね。しかしそこは単費は扱ってなかったという事実がありました。補助金をうまく使って。やはり単費だけで、これはしなければいけないと思うんです。しなければいけないけれども、単費だけではできない事業なので、計画は財政計画とともにほかの他町で、補助金等何を使ってやったほうが良いと、みんな苦労しながらやっているの、

そこをまずきちっと勉強した上で、来年度以降していかないと手遅れになる可能性すらあると思いますので、よろしくをお願いします。

続いて、413ページ、恐竜博物館の運営費ですが、この全体を見て、既に特別展の経費等も含まれて、骨格予算というよりもほぼ通常予算のように見えるんですが、何か6月に大型補正を予定されているわけですが、何か計画されているものはありますか。

○社会教育課長（宮川一幸君） 6月の補正では、今のところ博物館は何もありません。最初予算折衝のときに特別展については見るという形で判断をされました。でも、特別展につきましては大体例年夏休みに向けて事業を始めます。そうしますと、実行委員会等も4月には立ち上げますので、予算がどうしても必要になりますので、骨格折衝で書かせていただいたという経緯があります。そういった形で博物館につきましては、骨格予算なのですが、例年どおりの予算となっています。

○5番（福永 啓君） わかりました。ありがとうございました。

次、今話が出ました特別展ですが、これを見ますと2回予定されているようです。予算説明書の420ページに書いてございます。これはどのようなものをいつ頃予定されていますか。

○社会教育課長（宮川一幸君） まず、毎年開催しています夏の特別展につきましては、今年度と同じ時期に開催を計画しています。今年はミフネリュウの発見から40年という記念すべき年になっております。そういったことから、そういった関連の展示を行う予定です。

それと、もう1つの春の特別展につきましては、国立博物館との共催で開催する予定でおります。こちらは生命の進化をテーマとした内容になりますので、これまでの実績から、これにつきましても夏場にする実行委員会方式でやるという形で考えています。

○5番（福永 啓君） 春といいますと大体何月ぐらいの、どの時期でしょうか。年度をまたぐとかあると思うのですが、3月、4月、春ですから、時期的にはいつでしょうか。

○社会教育課長（宮川一幸君） 年明けまして、来年の3月、4月ぐらいになるかと思います。

○5番（福永 啓君） 来年ですか。

○社会教育課長（宮川一幸君） はい、来年です。今年いっぱいはありません。

○5番（福永 啓君） はい、わかりました。

○議長（藤川博和君） ほかに質疑はありませんか。

○10番（沖 徹信君） メンバーがいつも変わらないように思いますのでお尋ねします。学校

評議員というのは、今度から名称が変わるそうですけれども、学校評議員制度ができたのはいつですか。それから任期、それから学校によって、その人数、それから、誰が任命するのかということ。

○学校教育課長（坂本朋子君） お答えいたします。

学校教育法が変わったときに、平成12年から始まっております。そのまま学校でも立ち上げております。現在の評議員の数でございますけれども、御船小が5名、滝尾小が4名、中央小が6名、木倉小が4名、高木小が4名、小坂小が5名、御船中が7名となっております。学校長から推薦していただいて、教育委員会で任命をいたします。運営協議会に移った場合には、各学校とも概ね10名程度というところで今学校に周知しております。

○10番（沖 徹信君） 任期は。

○学校教育課長（坂本朋子君） すみません、任期は毎年変わります。1年単位になります。

○10番（沖 徹信君） 学校の入学・卒業式に出席しますよね。それを最初からやっておられるというか、それがいい悪いは別として、もうこれが始まったときからではないかなと。そのときPTA会長をしておったとか、いろいろな事情でそのまま残って現在に来ている。何人ぐらい替わってきたのかなと思うくらいに異動がないわけです。それがいいのか、まあ半数程度ずつ何年か越しに替わっていくというのがいいのか、そこはわかりませんが、このままじゃ新しい風は入らないと思いますよね。もうマンネリ化して、学校教育のどうのこうのの前に、自分はこうやって、ただ籍があるということは失礼かもしれませんが、そうなりかねないと思うのです。だから、今度の名称が変わるということですが、やはりそこら辺は、その人が長期にすることというのがいい悪いは別として、やはりある程度の風を入れて学校運営に意見を言ってくれるような人たちの設定というか選抜というか、そこら辺をお願いしたいのですけれども。

○教育長（本田恵典君） お答えいたします。

今、議員がおっしゃったとおりでございますが、学校の評議員会のメンバーはなかなか替わらないということは、これは事実であります。これからの学校の構想は、地域とともにある学校ということで、少し長い名称になるのですが、「地域学校協働活動」という形で、すべての学校と地域を結びつける活動を、そういう名前に文部科学省が変更しております。そして、学校評議員会はもちろん残しても構わないのですけれども、本町といたしましては、学校運営協議会という名前に変更いたしまして、メンバーもおそらく、学

校評議員の方が残られるところもあるかもしれませんが、大体今は各種団体長さん、これは数年ごとにおそらく替わられるのではないかなと思いますけれども、そういった方々のシステムもこれから新しく上がってくるのではないかなということで、10名程度の学校運営の協議会委員さんを学校で選んでいただいて、みんな委嘱をするということになりますので、これからの学校教育の中での、地域とともにある学校というのを、ぜひ地域から見つめていただいて、評価をいただければ大変ありがたいなと思っているところです。

○10番（沖 徹信君） そうなると、あて職というのですか、そこら辺も出てくるということですね。これは例えの話ですよ。今、公民館長とか交通指導員とか青少年健全育成とか、いろいろな団体がありますね。そういう形で各学校10名程度ならば、そのうちの何名かはあて職の人が入ると思っていていいわけでしょうか。

○教育長（本田恵典君） そういう学校も出てくると思います。

○10番（沖 徹信君） 名称は変わるかもしれませんが、そういう人たちの権限、評議員ということによって、学校にどれだけ口を出せるというのはちょっと言葉が違うかもしれませんが、学校運営、そこら辺にどれだけ助言ができるわけですか。

○教育長（本田恵典君） 大きく分けると5つだったと思いますけれども。簡単にまとめますと、今議員がおっしゃったように、学校長の経営方針、それから学校における計画、異動に関する事、それは人事に関する事です。そういうことについても、その中で協議をし、そして校長に提言をしたり、あるいは教育委員会に意見をするという事もできるようになります。

○10番（沖 徹信君） 人事にも口出せるわけですか、すごいですね。まあ、そういう人はいないとは思いますがね。人事というのは、よっぽどのことがない限り、やはりいろんなことに対して。そしてやはり地域との結びというのですか関連は強くなるわけですね。はい、わかりました。

そういう形で、皆さんに協力してもらって、その校区が発展するような方向性をとっていただきたいと思います。それから、やはり任期は同じく1年ですか。

○教育長（本田恵典君） はい、1年でございます。それから、申し述べますけれども、先ほど人事のことでお話し申し上げましたけれども、これは総体的な人事でございまして、例えばもう少しこういう活動を学校でやってほしいと。そのためにはその活動ができる設定が必要だという、そういった学校総体としてやっていくような人事でございまして、申

し添えておきます。

○10番（沖 徹信君） それから、御船町に分館がないのは、高木分館だけだと思います。それで、今の現状で、旧高木保育園跡地の使用をどうするか、決まってない。そこら辺で、やはり今後高木が人口が私は増えると思っています。そういう中で、今は下高野公民館というですか、集会所というか、そういう形を高木分館として使っていますけれども、いろんな面でやはり不自由なところもあるのではないかと思いますので、今後、高木分館を造っていただきたいと思います。高木分館ができて、初めてほかの校区と同等になるわけです。ないのは高木だけです。今度上野でも新しく農協跡地を買って造るという形になりますから、やはり地域のコミュニケーションをとるのは、やはり人が寄ってしゃべって飲んで食ってというか、そこら辺があって初めてコミュニティがとれると思います。そういう形の上でどのように考えておられますか。

○社会教育課長（宮川一幸君） 今までの経緯を御説明いたします。私が異動してきて2年前の、平成29年に、その前の議会で、沖議員からも結構高木分館のことを大分議会でお話されていたので、その当時の、平成29年度の高木の分館長と地元の区長さん等に話に行きました。そういった形で、別に場所はどこでもいいです。地区でどこか分館を建てるところはありますか。分館は、現状的には下高野の地区館を分館のような感じで使われているのですか、どうですかという形で御相談を申し上げたところ、まず高木地区である程度話し合ってみますという形で、一時期には高山地区から、そちらのほうに分館を造ったらどうかという形で、一応要望的に正式に地区で決まったら、それはそれで町としてもそれはお受けしますという形で言っていたのですが、それも最終的には、用地が話がつかなかったみたいで、そこは立ち消えした形にしております。

平成30年度になってからは、まだ何も高木地区にはお話ししてないのですが、今後分館としてはなるべく今のところ、今、沖議員が言われましたように、高木保育園の跡地も有効利用すれば、そういった形で分館として活用できればいいかなとは思っているのですが。今後また地域とお話をしながら、一応地域の意見を聞きながら、その分館の建設については協議をしていきたいと思っていますので、どうかよろしくお願いします。

○10番（沖 徹信君） 町長はどう思われますか。分館建設と、それから高木保育園の跡地の問題。

○町長（藤木正幸君） 高木保育園の跡地は、私も気にしているところであります。しかしな

がら、今課長から答弁がありましたように、地域との話し合いの中で決めさせていただきたいと思っております。現在、分館がないというのも、私も存じております。しかしながら、今後どうするかというのは、やはり地区の方々の合意形成が大事だと思いますので、地域の方とお話しして、この先決めてまいりたいと思います。

○10番（沖 徹信君） 今から高木校区が栄えるためには、中心となる公民館が必要だと、私は思っております。そのような形の中で、前向きに建設をするのだという方向性をもとに進めていただきたいと思います。

○議長（藤川博和君） ほかに質疑はありませんか。

○学校教育課長（坂本朋子君） 申し訳ありません。先ほどの田上議員のスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの件について、答弁させていただきたいと思います。上益城教育委員会の管内で、スクールカウンセラーが通常枠でお一人、スクールソーシャルワーカーが通常どおり4人、合計5人体制なのですけれども、熊本地震の震災枠で回っていて、スクールカウンセラーにつきましてはプラス7名、合計12名の方が今スタッフとしておられます。そのうちで、スクールカウンセラーについては、御船町を担当していただく方が3名、スクールソーシャルワーカーにつきましては2名ということになっております。

○6番（田上 忍君） わかりました。最初からそうやってそれぞれ人数を言ってもらえれば、長くならなかったと思いますが。これだけの人数がおれば、教育委員会としては大体大丈夫だろうという考えなのですね。もし足りなかったら、そのときは補正組むのですよね。それに対する答えがまだなかったのですが。

○学校教育課長（坂本朋子君） 今のところ考えておりませんとお答えしておりました。

○6番（田上 忍君） じゃあ、足りなくなったらどうするのですか。

○学校教育課長（坂本朋子君） 足りないといいますが、今のところ十分対応していただいております。

○6番（田上 忍君） 今のところではなくて、次年度のことではないですか。今回、だってあのときの予算と。じゃあ、もういいです。とにかく、足りなくなったら県に要望するとか、県に要望して、県も通らなかったら、もう必ず御船町で予算組んで入れてください。だって、こうやって、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー、子どもたちのパワハラとかセクハラとか、あといじめとか、そういう問題を子どもたちが相談するわけで

しょう。相談する相手がもう今日は1時間しか枠がありません。それでも、ずっと長く待っている人があって足りなかったら、そういうところにはどうするのですか。やはり足りなかったらそういうところは対処してほしいと思います。

○12番（岩田重成君） 七滝中央小学校の給食室の費用が出ております。大変ありがとうございます。そこで、旧給食室、この解体はいかがでございましょうか。

○学校教育課長（坂本朋子君） お答えいたします。

景観上、確かに芳しくなくて、早く解体する必要があるのかなとは思いますが、今回、まだ解体していなかったことによって、地震災害の際にも一時避難的には活用できたということもございますので、今後計画の中で見ていきたいと思っています。

○12番（岩田重成君） 今挙げられたように、地震のときに使いました。町長、今後この解体は考えておられますか。

○町長（藤木正幸君） 地震前は解体の協議を行っておりました。もう解体するということろまで来ていたのですけれども、その直後の地震でございました。これから地震後の復旧もある程度進んできていますので、今後また協議をしてみたいと思います。

○12番（岩田重成君） この給食室は鉄骨でございます。それで、農家の方々は何人か欲しいという方がおられます。ぜひともそのときは御検討をお願いしたいと思います。

○議長（藤川博和君） ほかに質疑はありませんか。

○3番（岩永宏介君） 4点お尋ねします。1つは今、田上議員の関連で、ちょっと関係しますが、スクールカウンセラーとSSW、スクールソーシャルワーカーは御船町担当は何人と何人ですか。

○学校教育課長（坂本朋子君） スクールカウンセラーは3人、スクールソーシャルワーカーは2名の数になっております。

○3番（岩永宏介君） そうしましたら、これにはスクールカウンセラーが、常駐で学校の方で、どこで相談を受けるわけですか。相談対象は保護者と児童生徒だろうと思うのですが、事務所に行って相談するのですか。あるいは中学校に派遣されているわけですか。

○学校教育課長（坂本朋子君） 学校教育課が仲介をいたしまして、納得していただいたり、御家庭を訪問していただいたり、その都度対応が変わっております。

○3番（岩永宏介君） そうしましたら、私もこれは、先ほどの説明を聞いておっいろいろ考えたのですが、相談件数とか相談内容という把握はできていますか。

○学校教育課長（坂本朋子君） 件数ですけれども、スクールソーシャルワーカーの相談件数は御船町では平成29年度の分しか出ていないのですけれども、21件になります。ソーシャルワーカーの質問者は、29年度は82件ということになっております。

○3番（岩永宏介君） 相談内容というところまで分類はできていますか。

○学校教育課長（坂本朋子君） すみません、内訳については今手元ございません。

○3番（岩永宏介君） ある、ないのですか。

○学校教育課長（坂本朋子君） 多分あったと思います。

○3番（岩永宏介君） そうしましたら、内訳等もあると思いますので、相談件数と、項目、内容を、ぜひ示していただきたいと思います。こういうのは非常に大事なことは、公開するということがものすごく大事なのです。だから、いじめや不登校について、そういうのが増えているとかいうのが傾向がつかめたりしますので、やはり、情報というのは公開したが一番いいだろうと思います。今のはぜひ文書でお願いしたいと思います。

それから、306ページに、研修旅費ということで、教育長先進地研修旅費、事務局職員先進地研修旅費、これは教育委員会先進地研修もあると思うのですが、要するに教育長が研修に行かれているというふうに見たのですが、あるいは事務局職員も行っておられると。どこに行かれたのかというのは、非常に関心があるわけです。なぜかといいますと、何を目的にということまで関心があって、やはり今から先の教育行政が、これによって方向性が見えてくるというふうにも思えますので、まずそこをお願いいたします。

○教育長（本田恵典君） お答えいたします。

事情を申し上げますと、大変忙しい年には実は行っておりません。私がこちらにまいりましてから、一昨年、昨年度は御承知のとおり滝尾小学校が複式学級になりますものですから、複式学級を実践していて、成果が上がっているところということで、阿蘇のほうにまいりまして、2校の小学校を見てまいりました。大変参考になりました。

本年度も、今度はさらにそういう課題ではなくて、一番最先端をいつている学校ということで、義務教育学校を先進地視察で行おうということにしておりましてけれども、夏以降からずっと調整をしていたのですが、先方と私ども、それから教育委員会との都合がつかなくて、とうとう行けずに終わりそうです。来年度はそういうことではいけないので、早目早目に計画を立てまして、今予定としましては、阿蘇の義務教育学校の高森学園、それから高森町が推進しておりますICT教育の先進地でございますので、そちらの2つ

を目的にして回ろうということで計画をしております。

○3番（岩永宏介君） 2点目ですが、385ページです。カルチャーセンターの運営費というところで、関連ですが、町民の方から事前に連絡があっていることがありまして、実は今日確認してきましたけれども、カルチャーセンターとスポーツセンターの間、あのあたりは今どんな状況になっていますか。

○社会教育課長（宮川一幸君） スポーツセンターとカルチャーセンターの駐輪場があるところのインターの付近とか、タイルを貼ってあるところなのですが、昨年災害復旧工事をしまして、工事中に1回ちゃんと完了したのですが、まだ地盤があそこが下がっているみたいで、タイルが割れている状態で、1回して、もう1回工事期間中に復旧したのですが、現状はまた地盤が下がっているみたいです、割れているのが現状です。

○3番（岩永宏介君） そうしましたら、やはり見かけばかりではなくて、けがの恐れもあると思いますよ。そういうのを何の全然危険区域という表示もないし、そのあたりはやはり速やかにしてほしいのですが、では、その工事の日程はいつになりますか。

○社会教育課長（宮川一幸君） 災害復旧につきましては、1回完了しております。結局また地盤が動いていますので、こういった形で、業者にも1回見てもらってはいるのですが、こういった対応がいいのかというのは、まだ全然今のところ答えが出てない状態なので、今後どうしたらいいかという形で、係内で、課内で協議をしているのですが、なかなか答えが出ないという形で、だから、あそこを一度はいでまた復旧したとしても、また少しずつつ下がって行ってタイルが浮いているところもまだあるので、今のところまだ苦慮しているところです。

○3番（岩永宏介君） 苦慮されているのはわかるのだけれども、そういうのはやはり地盤が動いているということで非常に難しいとは思いますが、今のままではもうだめだと思いますよ。何らかの形で、とにかくあそこは危ないというところの表示ぐらいはしておかないといけないということになります。

それから、次は410ページです。地域コミュニティ施設等再建支援事業交付金ですが、平成30年度の実質平均が100万円の10カ所です。1,000万円。これは、この10カ所というのは、交付金でこういうのは、地域コミュニティ施設を再建するという費用はわかるのですが、どのあたりのこれは、10カ所という中身を知りたいですね。

○社会教育課長（宮川一幸君） すみません、これは総務課の防災係で受け付けしております

ので、教育委員会ではわかりませんので、すみません。

○総務課長（吉本敏治君） お答えします。

昨年、平成30年が交付額として、実績として1,749万2,000円を交付しております。主な内容につきましては、神社であったりお堂であったり、それから天満宮とか、そういった地域の方々がそこでコミュニティの場としてコミュニケーションが取れる場所というのが前提になりますので、そういった部分を、これはまた基金利用ですので、まだまだ続く予定です。

今回、平均額として10カ所程度、今後の申し込みにすぐに対応できるためということで計上しているものであります。

○3番（岩永宏介君） 私の勉強不足で、そういう今、その文化財というところで上がっておりますので、その神社とかそういう修復に使うということは知っておりましたけれども、いろいろお世話になったわけですけれども、文化財、ここに出てくるというのが、文化財という意味でちょっと把握が、認識が不足しておりました。

それからもう1つ、その件ですが、411ページ、ここは恐竜化石調査費ということなのですが、真ん中に普通旅費が出ているのです。野外調査で米国モンタナ州、32泊33日、それから、静岡での学術発表2泊3日で、それから、学術発表ブリスベンで9泊10日という形で、金額もそこに出ておりますが、これはどなたですか。

○社会教育課長（宮川一幸君） 博物館の主任学芸員が参加する予定であります。

○3番（岩永宏介君） そしたら、これはこんなに安いお金で泊まれるのかなと、宿泊は。だから、逆に、このどなたですかね。池上先生じゃなくて。「池上先生です」と呼ぶ者あり]池上先生でしょう。かなり節約しながらの研修だなと思いますので、そのあたりの話は聞いていますか

○社会教育課長（宮川一幸君） まず、野外調査費ですが、結局1カ月もおって34万円という形で、これはとても安いのですが、これは結局渡航費のみになっています。野外の発掘調査の研修につきましては、そこでテント住まいだそうです。現地で、テントで寝泊まりして、だから、結局交通費のみでいいという形で、こういった形の予算計上になっています。あと2つについては、学会発表という形になりますので、それなりの金額は計上されていると思います。

○3番（岩永宏介君） それなりの金額ではないと思うのですよね。例えば学術発表で静岡に

行かれて、ここもテントで泊まるということではないでしょう。ブリスベンあたりでも発表ですので、やはりこれも安いというかですね。

○社会教育課長（宮川一幸君） 予算計上のときに、旅費については一応見積りを取られてからされていたので、ちょっとそれははっきりしましてから、また後でお答えいたします。

○3番（岩永宏介君） 要するに、非常に一生懸命頑張っておられる先生ですので、そういうところの待遇面では、やはり考えて、節約ということを一生懸命されているような気がいたしましたので申し上げたわけです。

○6番（田上 忍君） すみません、先ほど岩永議員が聞かれたときに、スクールカウンセラーとSSWの相談の件数ですね、もうちょっと細かく教えてほしいのですが。児童生徒の相談件数、それから保護者の相談件数、そしてたしか職員も相談できたと思うのですけれども、職員の数、それぞれ人数をお願いします。

○学校教育課長（坂本朋子君） 申し訳ありません。先ほどもお答えしたとおり、それ以上細かい条件面が手元にございませんで申し訳ありません。

○6番（田上 忍君） では後をお願いします。

もう1件、先ほどの沖議員との関連になりますが、公民館ですけれども、落合地区にも集会所というのが今ないのですよね。何度か今まで陳情とか上がってきたと思うのですが、今、落合地区と西木倉に木造の仮設の住宅があります。このあたりを集会所として有効活用できないのか、その辺について教えてください。

○企画財政課長（坂本幸喜君） お答えします。

集会所といいますと、木造仮設住宅の利活用という2つでよろしいでしょうか。あまりにも、木造仮設は被災者のための、被災者の再建のために利活用するというのが第一の目標であります。それが、集会所がないから木造仮設住宅をそこに移転して集会所に使うということは、まず無理なところはありますけれども、それが被災者のためになる、被災者の再建につながるということであれば、利活用は可能と思いますけれども、今のところ、それがそのまま集会所に活用できるかというのは、まず検討の余地があると考えております。

○6番（田上 忍君） 今せっかく建てているというか、木造の住まいがあります。本当に有効活用してほしいなと思うところです。

○議長（藤川博和君） ほかに質疑はありませんか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤川博和君） これで質疑を終わります。

お諮りします。13時まで休憩いたします。

~~~~~ ○ ~~~~~

午前 11時59分 休憩

午後 1時00分 再開

~~~~~ ○ ~~~~~

○議長（藤川博和君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

岩永議員の質疑で発言の申し出がありましたので、発言を許します。

○社会教育課長（宮川一幸君） 午前中の質疑の中で、岩永議員の、予算説明書の411ページの普通旅費の件で、詳細の説明をいたします。

まず、野外調査の米国モンタナ州への32泊33日分の詳細なのですが、航空運賃と、この中で宿泊がテント宿泊と言っていたのですが、その詳細について説明します。まず、ホテルに5泊します。それと、向こうのモンタナ州の博物館の部長宅に4泊、あとテントが22泊という形が詳細になっております。あと機内泊という形になっています。それで、実際見積りが34万6,460円という形で出されていますので、34万7,000円を計上しておるといふところです。

それとあと2つ目の2泊3日の学会発表の静岡分ですが、これにつきましては、空港の飛行機のパックを利用しまして行くような形で、向こうのパックが4万3,900円という形になっております。それと向こうでの鉄道移動分の1万5,000円程度、それとあと、日当を3日分という形で、合計しますと6万4,874円という形になりますので、6万4,900円を予算計上しているという形になっております。

あと、3段目のオーストラリアのブリスベンとかで、その詳細については、航空運賃が17万8,340円となっております。これについては、全部ホテル泊するような形になっております。あと日当につきましては、見積金額が29万5,140円という形になっていまして、予算を29万6,000円を予算計上したという形になっております。

○議長（藤川博和君） 10款、災害復旧費、11款、公債費、12款、諸支出金、13款、予備費までの説明を求めます。

○農業振興課長（藤野浩之君） それでは、災害復旧費について御説明いたします。予算書

117ページです。10款、災害復旧費。1項、農林水産業施設災害復旧費。1目、農地災害復旧費450万4,000円。主なものは、工事請負費400万円。これは現年災です。

2目、農業用施設災害復旧費5,066万2,000円。主なものは、職員人件費と、次のページをお願いいたします、13節、委託料、熊本地震及び豪雨災害に係る事務支援業務委託料1,560万円、15節、工事費400万円、現年災です。

以上、農災関係です。

○建設課長（野口壮一君） 119ページをお願いします。2項、公共土木施設災害復旧費。1目、道路橋梁施設災害復旧費、本年度予算4,057万2,000円。主なものは人件費です。

120ページをお願いします。4目、宅地耐震化事業、本年度予算18億9,085万8,000円。主なものは、13節、委託料、大規模盛土造成地滑動崩落防止事業及び宅地耐震化事業に係る発注者支援による委託及び調査設計委託費2億3,300万円。121ページをお願いします。15節、工事請負費、同じく大規模盛土造成地滑動崩落防止事業及び宅地耐震化推進事業、さらに砂防効果促進事業に係る工事請負費16億1,564万5,000円。22節、補償補填及び賠償金1,020万円です。

住宅災害復旧費については廃目になっています。

○学校教育課長（坂本朋子君） 10款、災害復旧費の公立学校施設災害復旧費も廃目になっております。

○企画財政課長（坂本幸喜君） 121ページの一番下になります。11款、公債費。1項、公債費。1目、元金8億9,599万6,000円です。2目、利子6,842万8,000円です。

122ページをお願いいたします。12款、諸支出金。1項、普通財産取得費。1目、土地取得費1,000円です。

13款、予備費。1項、1目、予備費、1,000万円です。

以上で歳出についての説明を終わります。

○議長（藤川博和君） 質疑を行います。10款、災害復旧費、11款、公債費、12款、諸支出金、13款、予備費について、質疑はありますか。

○5番（福永 啓君） まず、災害復旧費、これから1点だけお聞きいたします。熊本地震から純粋に復旧に関する、事業に関する工事、この予算というのは、要するに復旧のみです。今から復興しなければならないわけで、これはいつまで復旧に関する予算は出てくるべき、今のところ予定でしょうか。

○建設課長（野口壮一君） まず、道路それに河川の災害復旧については、平成30年度で終了をしています。12月の議会で単独災害復旧費 2 億5,249万2,000円、この分については3月末から発注という計算になります。今回は、予算が出ています宅地耐震化事業につきましては、これは国で社会資本整備総合交付金が熊本県が策定しました熊本復旧・復興4箇年戦略、これが平成28年度から平成31年度までの計画になっております。これに合わせて、先ほどの交付金も平成31年度まで、いわゆる財源あたりを拡大したやつで対応しますということになっております。

よって、今回平成30年度予算の中で、宅地耐震化事業、かなり大きな額になっておりますが、これをすべてのものを今回平成30年度の予算で計上しているということになります。残りの部分ですね。これで、これ以降32年度、次年度からというのは、宅地耐震化は出てこないというものになります。

○農業振興課長（藤野浩之君） お答えいたします。

農災につきましても、28年災、地震災、豪雨災害については、平成31年度の予算をもって完了見込みになっております。

○5番（福永 啓君） いろいろ最初から予算の財源については苦勞されて行われてきたわけなのですが、今のお話をお聞きしますと、一応基本的に、一番最初の熊本地震に関する予算及びその後の復興による予算、すべてを含めましても、復旧に関しては平成31年度内ですべて予算は出てくるということによろしいですかね。はい。

そうしますと、復旧に関することだけを考えますね。復興は今からですから。復旧に関する工事がすべて終了するのは、いつになりますか。

○建設課長（野口壮一君） 今回、平成31年度で計上させていただいておりますが、31年度で発注できる部分は発注しまして、未契約部分を次年度に繰り越すという計画をしております。工事自体が終わるのを平成31年度末もしくは平成32年度まで一部延びてくる可能性はあります。

○農業振興課長（藤野浩之君） お答えいたします。農災につきましても、今98%の契約を終わっております。あと残りを平成31年度に契約をいたしまして、工事の完了としましては、31年度末、来年の3月末を目標に、完了を目指したいと思っております。

○5番（福永 啓君） そうしますと、予算については平成31年度、今回、その後に補正でちょこちょこ出てくるかもしれませんが、平成31年度までに復旧に関する予算は打ち

止め、そして工事自体は、できれば31年度以内に終わってしまいたいですが、一部平成32年度までかかる可能性があると思います。そのほかは復旧ということですね。はい、そこは復旧は終わって、復興に向けて走り出すということで、理解いたしました。

次、公債費、438ページから公債費がありますが、大分今回の災害等で町の借金も増えてまいりました。現在、利子はどれぐらいと借りていらっしゃるのですか。まだ、今は安いと思います。過去に高い利子で借りたものはどれぐらい残っているのでしょうか。それに対する借り換えの検討とか、それはされていますか。

○企画財政課長（坂本幸喜君） お答えします。

まず、現在の利子です。どれぐらいでどれぐらいで借りているのかという質問なのですけれど、借入額の償還期間においては、ある程度の利子の利率は変わってきます。その中でも、平成29年度の借り入れで一番高いもので0.9%、一番低いもので0.1%となっています。ほとんどが大体1%以下で借り入れていますけれども、一部0.9%があったということが今の現状です。

その次に、過去に高い利子で借りた分は残っているのかという質問なのですが、平成29年度末の起債の残高が約130億円程度のうち、4%から5%のものが大体740万円程度、それと3.5%から4%のものが1,200万円程度、それと3.0%から3.5%のものが1,600万円程度現在あるところです。すべてが政府関係の公的資金のほうがそういう形になっております。

それと、最後の質問ですけれど、借り換えは検討しているのかという質問なのですが、まず公的資金です、財務省とか機構とかの公的資金に関しましては、負担軽減のために借り換えをすることはできないという形になっております。公的資金に関しましては借り換えはできないと。町の負担利率が高いから安いほうに借り換えしますというのはいけないという形です。

民間資金については、現在最も高い利率が1.32%です。御船のはほとんどが1%、それ以外はほとんど1%以下ということで、今のところ借り換えは予定していないというのが現状です。

○5番（福永 啓君） 今、実は利子の収入も少ないですけど、逆に言えば御船町はお金を預けているという感じです。借りている金のほうがはるかに多いわけですから有利なのです、この低金利時代というのは。少しでも、借り換え自体は銀行とかは嫌うと思います、私も

借り換えをしたことがありますけど。何かにつけて「でけん」て言いなはるですよ。そればってん、何か、そのあたりの、とにかく民間はできるわけですから、制度的にはできるけれども、ああ、これぐらいのことだったら、まあしとんなったほうが楽ですよみたいな話になりかねません。やはり町民のためにもそのあたりの交渉はしっかり行っていただいて、1万、2万、3万円とかでも利益が出るならぜひお願いしたいと。公的資金に関しましても、制度上、私はできないことはないと思います。制度を見ましたので。いろいろ制約があります。だから、させたがっなはらんとですよ。しかし、制度上できないことは私はないと思います。今回4%とか3%で借りているわけですから。そこもあと1回、きちんと検討していただきたいと思います。

○4番（中城峯雄君） 今の福永議員の公債費の関連ですけれども、平成31年度は償還金と利子を含めると9.7億円増加していますよね。30年度が7億円でしたから、2.7億円ほど増加をしております。そのうちに、交付税でどれぐらい返ってくると見ておりますか。

○企画財政課長（坂本幸喜君） まず、お答えします。

今回、この元金です2億7,000万円ほど増額になっています。そのうち、この大きな要因としましては、平成31年度から熊本地震にかかわる元金の償還金が本格的にスタートしたことが主な要因となっております。そのうち、熊本地震に係る元金の償還額、この償還額のうち熊本地震に係る元金の償還額が大体2億9,500万円です。8億9,599万6,000円のうち、熊本地震に係る分の元金償還が約2億9,500万円です。そのうち交付税で返ってくるのが2億5,400万円です。ということで、86%が交付税として返ってくるという形の計算上そうっております。

○4番（中城峯雄君） これは、災害復旧で増えるのはやむを得ませんけれども、これはシミュレーションで見ますと、平成33年度以降は、これは緊急の経済対策の償還額が出ていますが、だから14億の償還になっていますよね。まあ、さらに厳しい、それに災害復旧も当然償還が出てくるでしょう。さらに厳しい財政運営になりますけれども、この対応の施策というのは、これだけ増えてくると非常に厳しいと思いますが、何かお考えになっておりますか。

○企画財政課長（坂本幸喜君） 今回私たちがシミュレーションをしました。平成30年度から40年度のシミュレーションの中で、毎年大体14億円ほどの償還が発生するということになっています。この中でも今まで何回も言いましたように、今後、復旧から復興に御船町も

進んでいきます。その中でやはり行財政改革を早急に実施しまして、歳出できるのは歳出、歳入で確保できるのは歳入で、特に使用料の見直しとか、そのほうにも着手していきたいと考えています。

○4番（中城峯雄君） 今こういった状況ですので、何としてでも、今企業誘致でもすぐに入ってくるというわけではないでしょう。それから御苦労があつて企業側と、また人が増えていけば、それをぜひともしないと、やっぱりその辺はいろいろ意見があると思いますけれども、それはもう、地方の方針としてやっていていただきたいと思います。

○議長（藤川博和君） ほかに質疑はありませんか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤川博和君） 以上で、平成31年度御船町一般会計予算について、質疑を終わります。討論を行います。討論はありませんか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤川博和君） 討論なしと認めます。

これから、議案第112号、「平成31年度御船町一般会計予算について」の件を採決します。

お諮りします。

本件は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者 起立〕

○議長（藤川博和君） 起立多数です。したがって、本件は原案のとおり可決されました。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第2 議案第113号 平成31年度御船町国民健康保険事業特別会計予算について

○議長（藤川博和君） 日程第2、議案第113号、「平成31年度御船町国民健康保険事業特別会計予算について」の件を議題とします。説明を求めます。

○町民保険課長（宮崎尚文君） 国民健康保険事業特別会計予算について説明をいたします。

まずはじめに、歳入から説明をいたします。7ページをお願いします。1款、1項、国民保険税。1目、一般被保険者国民健康保険税3億6,138万7,000円。2目、退職被保険者等国民健康保険税207万7,000円。

8ページをお願いします。4款、使用料及び手数料。2項、手数料。1目、督促手数料25万円。

7 款、県支出金。1 項、県負担金・補助金。1 目、保険給付費等交付金17億6,429万8,000円。これは、1 節、普通交付金17億3,133万2,000円と2 節、特別交付金3,296万6,000円です。

9 ページをお願いします。10 款、財産収入。1 項、財産運用収入。1 目、基金運用収入は存目です。

11 款、繰入金。1 項、1 目、一般会計繰入金2 億392万円。法定内繰入が1 億9,392万円、法定外繰入が5 万円となります。2 項、1 目、基金繰入金は存目です。

10 ページをお願いします。12 款、1 項、繰越金。2 目、その他繰越金869万4,000円。

13 款、諸収入。1 項、加算金、延滞金及び過料。1 目、一般被保険者加算金及び、2 目、退職被保険者等加算金は存目です。3 目、一般被保険者延滞金30万円。4 目、退職被保険者等延滞金及び過料は存目です。

4 項、雑入。1 目、一般被保険者第三者納付金300万円。2 目、退職被保険者等第三者納付金及び3 目、一般被保険者返納金は存目です。11 ページをお願いします。4 目、退職被保険者等返納金は存目です。5 目、雑入50万円。

以上、歳入合計23億4,443万5,000円となります。

続きまして、歳出を説明いたします。12 ページをお願いします。

1 款、総務費。1 項、総務管理費。1 目、一般管理費2,457万7,000円。主なものは、13 節、委託料の国保連合会共同電算委託料283万円、レセプト点検委託料126万8,000円です。2 目、連合会負担金110万3,000円。13 ページをお願いします。2 項、徴税費。1 目、賦課徴収費16万5,000円。3 項、1 目、運営協議会費27万円。主なものは、1 節、国保運営協議会委員の9名の報酬です。4 項、1 目、趣旨普及費40万5,000円。

2 款、保険給付費。1 項、療養諸費。1 目、一般被保険者療養給付費14億6,863万7,000円。2 目、退職被保険者等療養給付費1,224万7,000円。3 目、一般被保険者療養費1,782万3,000円。14 ページをお願いします。4 目、退職被保険者等療養費12万円。5 目、審査支払手数料530万9,000円。

2 項、高額療養費。1 目、一般被保険者高額療養費2 億2,994万円。2 目、退職被保険者等高額療養費236万5,000円。3 目、一般被保険者高額介護合算療養費15万円。4 目、退職被保険者等高額介護合算療養費は存目です。

15 ページをお願いします。3 項、移送費。1 目、一般被保険者移送費及び2 目、退職

被保険者等移送費は存目です。

4項、出産育児諸費。1目、出産育児一時金1,260万円。2目、支払手数料7,000円。

5項、葬祭諸費。1目、葬祭費70万円。

3款、国民健康保険事業納付金。1項、医療給付費分。1目、一般被保険者医療給付費分3億9,197万円。2目、退職被保険者等医療給付費分120万円。

16ページをお願いします。2項、後期高齢者支援金等分。1目、一般被保険者後期高齢者支援金等1億1,370万7,000円。2目、退職被保険者後期高齢者支援金等50万円。

3項、1目、介護納付金分3,152万5,000円。

8款、保健事業費。1項、1目、特定健康診査等事業費2,247万4,000円。主なものは、13節、委託料の特定健診委託料1,689万8,000円です。

17ページをお願いします。2項、保健事業費。1目、保健衛生普及費153万4,000円。主なものは、13節、委託料の共同電算委託料113万4,000円です。

9款、1項、基金積立金。1目、国保積立金は存目です。

11款、諸支出金。1項、償還金及び還付加算金。1目、一般被保険者保険税還付金200万円です。2目、退職被保険者等保険税還付金は存目です。18ページをお願いします。3目、一般被保険者償還金及び4目、退職被保険者償還金は存目です。5目、一般被保険者還付加算金10万円。

12款、1項、1目、予備費300万円。共同事業拠出金は廃款です。

以上、歳出合計23億4,443万5,000円となります。

以上で、国民健康保険事業特別会計の説明を終わります。

○議長（藤川博和君） 質疑を行います。質疑はありますか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤川博和君） 質疑なしと認めます。

討論を行います。討論はありますか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤川博和君） 討論なしと認めます。

これから、議案第113号、「平成31年度御船町国民健康保険事業特別会計予算について」の件を採決します。

お諮りします。

本件は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

[賛成者 起立]

○議長（藤川博和君） 起立多数です。したがって、本件は原案のとおり可決されました。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第3 議案第114号 平成31年度御船町介護保険事業特別会計予算について

○議長（藤川博和君） 日程第3、議案第114号、「平成31年度御船町介護保険事業特別会計予算について」の件を議題とします。説明を求めます。

○福祉課長（西橋静香君） 介護保険事業特別会計について説明します。7ページをお願いいたします。

歳入。1款、保険料。1項、介護保険料。1目、第1号被保険者保険料3億9,223万9,000円。これは、65歳以上の第1号被保険者の介護保険料となります。

2款、使用料及び手数料。1項、手数料。1目、総務手数料2万円。

3款、国庫支出金。1項、国庫負担金。1目、介護給付費負担金3億3,845万9,000円。2項、国庫補助金。1目、調整交付金1億4,600万2,000円。これは、市町村毎の高齢化率、財政力等に応じた調整交付金です。3目、地域支援事業交付金（介護予防事業分）1,877万6,000円。これは、介護予防事業の補助金です。

8ページをお願いいたします。4目、地域支援事業交付金（包括的支援事業・任意事業分）1,401万3,000円。これは、地域包括支援センター運営費及び認知症対策等任意事業の補助金です。

4款、1項、支払基金交付金。1目、介護給付費交付金5億1,135万5,000円。これは、40歳から64歳の第2号被保険者が負担する介護給付費となります。2目、地域支援事業支援交付金2,027万3,000円。これは、第2号被保険者が負担する介護予防事業費となります。

5款、県支出金。1項、県負担金。1目、介護給付費負担金2億7,778万3,000円。

3項、県補助金。2目、地域支援事業交付金（介護予防事業分）です。938万5,000円。3目、地域支援事業交付金（包括的支援事業・任意事業分）700万6,000円。

9ページをお願いいたします。6款、財産収入。1項、財産運用収入。1目、利子及び配当金、存目です。

7款、繰入金。1項、一般会計繰入金。1目、介護給付費繰入金2億3,701万6,000円。2目、その他一般会計繰入金6,067万2,000円。3目、地域支援事業繰入金（介護予防

事業分) 938万5,000円。4目、地域支援事業繰入金(包括的支援事業・任意事業分) 700万6,000円。5目、保険基盤安定繰入金1,833万6,000円。これは、介護保険料の全所得者軽減分補填の繰入金となります。

8款、1項、1目、繰越金30万円。

10ページをお願いいたします。10款、諸収入。1項、サービス収入。1目、居宅支援サービス費収入714万7,000円。2項、1目、介護予防事業収入106万2,000円。3項、延滞金、加算金及び過料。1目、第1号被保険者延滞金及び2目、第1号被保険者加算金は存目です。5項、3目、雑入2,000円。

歳入は以上です。

11ページをお願いいたします。歳出です。1款、総務費。1項、総務管理費。1目、一般管理費3,823万7,000円。主なものは、人件費及び13節、委託料。介護保険電算システム保守委託料73万3,000円です。

12ページをお願いいたします。2項、徴収費。1目、賦課徴収費108万7,000円。主なものは、12節、通信運搬費86万8,000円です。

3項、介護認定審査会費。1目、認定調査等費1,102万9,000円。主なものは、12節、役務費、主治医意見書作成料651万5,000円です。13ページをお願いいたします。2目、認定審査会共同設置負担金473万8,000円。これは、上益城広域連合で設置している介護認定審査会の御船町負担金となります。

2款、保険給付費。1項、1目、介護サービス等諸費17億2,363万7,000円。これは、介護事業者に支払う介護給付費です。

2項、1目、支援サービス等諸費4,845万4,000円。これも、介護事業者に支払う支援給付費です。

3項、その他諸費。1目、審査支払手数料183万9,000円。14ページをお願いします。

4項、高額介護サービス等費。1目、高額介護サービス費。19節、負担金補助及び交付金4,280万円。2目、高額支援サービス費10万円。

5項、高額医療合算介護サービス等費。1目、高額医療合算介護サービス費407万6,000円。2目、高額医療合算介護予防サービス費10万円。

7項、特定入所者介護サービス費等。1目、特定入所者介護サービス費7,511万8,000円。これは、特別養護老人ホームなどの介護施設に入所した低所得者要介護者の居住費食

費軽減の補填金となります。2目、特定入所者支援サービス費20万円。これも低所得者要支援者の居住費、食費の軽減などの補填金となります。

15ページをお願いします。3款、地域支援事業費。1項、総務管理費。1目、一般管理費955万4,000円。主なものは、13節、委託料で、介護予防支援プラン作成委託料224万円です。

2項、介護予防・日常生活支援総合事業。1目、介護予防・生活支援サービス事業費5,969万2,000円。16ページをお願いします。主なものは、19節、通所型サービス（指定事業者分）負担金2,016万円と、訪問型サービス（指定事業者分）負担金1,104万円です。

17ページをお願いいたします。2目、一般介護予防事業費1,921万3,000円。主なものは、13節、委託料、地域介護予防活動支援事業委託料他1,068万5,000円です。

3項、包括的支援事業・任意事業費。1目、包括的支援事業3,307万3,000円。18ページをお願いいたします。主なものは、13節、生活支援コーディネーター設置委託料644万6,000円です。19ページをお願いします。2目、任意事業332万7,000円。主なものは、13節、委託料、緊急通報システム委託料74万3,000円です。

20ページをお願いします。4款、1項、基金積立金。1目、介護給付費準備基金積立金、存目です。

5款、諸支出金。1項、償還金及び還付加算金。1目、第1号被保険者保険料還付金30万円。3目、第1号被保険者還付加算金1万円。

6款、1項、1目、予備費25万円。

介護保険事業特別会計は以上です。

○議長（藤川博和君） 質疑を行います。質疑はありますか。

○4番（中城峯雄君） 総額で1億4,600万円増加しております。その増加の主な理由は何ですか。

○福祉課長（西橋静香君） 主な理由は、65歳以上の被保険者数が増えてくるということと、後期高齢者の割合も増えてくるというのが主な原因で、高齢者の数が増えてくるということは、介護を必要とする方の数も増えてくるということが主な原因だと思います。

この介護保険制度は平成12年度からスタートした、みんなで支える仕組みの社会保障の制度です。この、平成29年度の介護給付費の総額は16億4,000万円でしたが、今年度、30年度は17億4,000万円を見込みとなっています。介護保険事業計画は、3年ごとに事業

計画を見直していつているのですけれども、高齢化率やサービスの見込み料を算定して、標準給付費というのを作っていきます。その標準給付費にあわせて保険料が決定されていきます。平成31年度の標準給付費を18億9,613万2,000円程度を見込んでおります。その繰入金の増額というのは、法定割合で、町負担分12.5%分が残ることになります。

○4番（中城峯雄君） 高齢化率は年々上がってきます。したがってこの負担金も増えてくる。12.5%ですか。それはもう私も後期高齢者ですからやむを得ませんけれども。これは、この上がってくるということは、個人の介護保険料も当然上がるわけですか。

○福祉課長（西橋静香君） 平成30年度から第7期の介護保険事業計画が決定します。第7期の来年から3年間の介護保険料は、基準額で6,400円となっております。

○4番（中城峯雄君） それは上がったのですか。平成31年度も据え置きということですか。

○福祉課長（西橋静香君） はい、3年間の保険料になりますので、平成32年までこの保険料でいきます。

○4番（中城峯雄君） はい、わかりました。

○議長（藤川博和君） ほかに質疑はありませんか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤川博和君） 質疑なしと認めます。

討論を行います。討論はありませんか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤川博和君） 討論なしと認めます。

これから、議案第114号、「平成31年度御船町介護保険事業特別会計予算について」の件を採決します。

お諮りします。

本件は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者 起立〕

○議長（藤川博和君） 起立多数です。したがって、本件は原案のとおり可決されました。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第4 議案第115号 平成31年度御船町後期高齢者医療事業特別会計予算について

○議長（藤川博和君） 日程第4、議案第115号、「平成31年度御船町後期高齢者医療事業特別会計予算について」の件を議題とします。説明を求めます。

○5番（福永 啓君） 議長、すみません、よろしいですか、事務的なことです。

○議長（藤川博和君） どの件。前の件。

○5番（福永 啓君） 多分これは私だけかもしれませんが、ここの予算説明書、今からの予算説明書の後期高齢特会の一番後ろに、同じ後期高齢特会がこういうふうには1番から入っていたと。一生懸命に見たのですが、同じように見えるのです。何か差し替えて。

○議長（藤川博和君） 何ページ。

○5番（福永 啓君） 説明をしますと、歳入、歳出となっています。そしてほかの人は、歳入と歳出で、歳入と歳出があって、こうあって、こうあっていると。ところが私のは、歳入の3の1と3の2がここに挟まっていたのです。余分に入っていたように感じたのですが、何か差し替えか何かされましたか、ここを、最終的に。

○議長（藤川博和君） お諮りします。10分ほど休憩したいと思います。御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤川博和君） 異議なしと認めます。10分間休憩することに決定しました。

~~~~~ ○ ~~~~~

午後1時44分 休憩

午後1時53分 再開

~~~~~ ○ ~~~~~

○議長（藤川博和君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

○企画財政課長（坂本幸喜君） 大変御迷惑をおかけしました。後期高齢の中の一番後ろのほうに歳入が1枚混じっていたということで、ほかは確認したところ間違いありませんでした。大変御迷惑かけました。

○町民保険課長（宮崎尚文君） それでは、後期高齢者医療特別会計予算について説明します。初めに、歳入から説明いたします。6ページをお願いします。

1款、1項、後期高齢者医療保険料。1目、特別徴収保険料9,648万7,000円。2目、普通徴収保険料4,123万8,000円。

2款、使用料及び手数料。1項、手数料。1目、督促手数料2万円。

3款、繰入金。1項、一般会計繰入金。1目、事務費繰入金1,002万円。2目、保険基盤安定繰入金7,038万円。

4款、1項、1目、繰越金は存目です。

7ページをお願いします。5款、諸収入。1項、延滞金、加算金及び過料。1目、延滞金1万円。2目、過料は存目です。2項、償還金及び還付加算金。1目、保険料還付金15万円。2目、還付加算金2万円。3項、受託事業収入。1目、後期高齢者医療広域連合受託事業収入519万5,000円。4項、4目、雑入は存目です。

以上、歳入合計、2億2,352万3,000円となります。

歳出を説明します。8ページをお願いします。1款、総務費。1項、総務管理費。1目、一般管理費909万6,000円。主なものは、職員の給料・・・です。2項、1目、徴収費57万4,000円。

9ページをお願いします。2款、1項、1目、後期高齢者医療広域連合納付金2億851万9,000円。

3款、保健事業費。1項、健康保持増進事業費。1目、健康診査費449万9,000円。2目、健康増進費35万円。鍼灸あんま券の補助金です。

4款、諸支出金。1項、償還金及び還付加算金。1目、保険料還付金15万円。2目、還付加算金2万円。2項、繰出金。1目、一般会計繰出金は存目です。

10ページをお願いします。5款、1項、1目、予備費31万4,000円。

以上、歳出合計2億2,352万3,000円となります。

以上で、後期高齢者医療特別会計の説明を終わります。

○議長（藤川博和君） 質疑を行います。質疑はありますか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤川博和君） 質疑なしと認めます。

討論を行います。討論はありますか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤川博和君） 討論なしと認めます。

これから、議案第115号、「平成31年度御船町後期高齢者医療事業特別会計予算について」の件を採決します。

お諮りします。

本件は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者 起立〕

○議長（藤川博和君） 起立多数です。したがって、本件は原案のとおり可決されました。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第5 議案第116号 平成31年度御船町緑の村運営事業特別会計予算について

○議長（藤川博和君） 日程第5、議案第116号、「平成31年度御船町緑の村運営事業特別会計予算について」の件を議題とします。説明を求めます。

○商工観光課長（作田豊明君） 御船町緑の村運営事業特別会計予算について説明いたします。

6ページをお開けください。

歳入です。1款、1項、入場料。1目、緑の村入場料289万4,000円です。

2款、1項、使用料。1目、緑の村施設使用料1,003万4,000円です。

4款、繰入金。1項、1目、一般会計繰入金755万8,000円です。運営事業繰入金です。

5款、1項、1目、繰越金1,000円です。

6款、1項、諸収入。1目、雑入67万5,000円です。キャンプ用品販売並びに自動販売機の収入となります。

7ページをお願いします。町債につきましては、廃款となっております。

8ページを御覧ください。歳出です。1款、総務費。1項、総務管理費。1目、一般管理費1,931万9,000円です。主な支出は、1節、村長の報償（報酬）費182万3,000円です。それと、13節、委託料1,032万8,000円です。主に、リフト運行委託料83万7,000円と施設管理委託料803万9,000円です。これは、緑の村受付、宿直、施設内の草刈り及び野焼き等の前の草刈りの料金になります。9ページをお願いします。18節、備品購入費54万8,000円です。これは、AEDを新しく申請しまして、ドームの備品倉庫を購入することになっております。

次に、2款、1項、公債費。1目、元金です。予算額151万7,000円と2目、利子が2万6,000円となっております。これは、23節のキャンプ場のトイレ工事の償還金利子及び割引料が本年度から始まります。

次に、4款、1項、1目、予備費です。予算額30万円となっております。

以上で、説明を終わります。

○議長（藤川博和君） 質疑を行います。質疑はありませんか。

○2番（森田優二君） 骨格予算で出ておりますけれども、歳入です。入場料また使用料、こちらあたりは平成30年度とほとんど変わらないところで計画をしてあります。これについて、お願いします。

○商工観光課長（作田豊明君） お答えします。

この入場料と使用料につきましては、昨年度シミュレーションを立てまして、今年大体365日を1年としますと、稼働率、水曜日を休みにしまして、火曜日から水曜日は入村の宿泊を、特にドームですが、入れておりません。大体248日としまして、大体近隣の一番新しいところのドームの宿泊施設でも、大体20%から25%の稼働率ということになっておりますので、うちとしましても、そのペースを考えまして、今年ドーム使用量が391回ということで、大体30%の見込みをもって今やっております。それに合わせまして、入場料も、昨年度データ的には1,000人ぐらい入村者が増えまして、だんだん入村者が増えておりますので、これを見越して、今予算を立てているところです。

○2番（森田優二君） 詳しい説明はいいのですけれども、要は、ホームページなんかにするとかいろんな話が出ておりました。その中で、平成30年度とほとんど変わらない。31年度は30年度より日数的に多いわけですよ。そこで、今言われた入場料とか何とか変わらないということになっておりますので、やはりそこらあたりを考えると、もうちょっと深く収入のほうを考えてほしいなというのと、結局繰入金も700万円ほどあります。そういったことをできるだけ繰入金がないような、計画は計画を立ててほしいなというのがありました。

○6番（田上 忍君） 債務負担行為で受付業務とその他の委託ということに採決されました。その後いろいろ契約等動いていると思うのですが、まずこれは、どこに委託しているのですか。

○商工観光課長（作田豊明君） お答えします。

債務負担行為で採決いただいてありがとうございます。今後、議会終了後速やかに、基本的には、回答しましたように、観光協会がここの一番内容も知っておられるということで、今、発掘体験関係で、一番、うちとして関係が深く携わっておられますので、そこに考えております。また、職員も一緒になって移行していただきたいと考えております。

○6番（田上 忍君） 最初から観光協会にお願いするということだったのでしょうか。ほかの団体とか、何かいろいろな、ちょっと言えばおられるのですけれども、そういうところへの委託は考えていなかったのですか。

○商工観光課長（作田豊明君） お答えします。

民間のほうも考えてやっていたところなんですけど、一番身近で信用できる観光協会

を優先的に考えていきたいと考えています。

○6番(田上 忍君) 今回の予算書の中に、村長とあともう1人、臨時職員、非常勤職員、2人分の予算があります。今度こうやって委託先と、この関係というのはどうなっているのですか。村長が一番頭において、村長のもとで委託された方も動いていくのかどうか。その辺の体制というか、その辺の考えを教えてください。

○商工観光課長(作田豊明君) お答えします。

これは、指定管理者ではありません。公の施設になりますので、村長を中心に、この非常勤職員に指導をしまして管理をやっていきたいと思っています。

○6番(田上 忍君) その非常勤職員という方は村長のもとで動くと思うのですが、この委託された方とか、今観光協会にお願いしようと思っているということだったのですが、その観光協会の委託された人たちは、誰の指示のもとで動くのですか。もう自分たちだけの考えで、村長は関係ないというところで動くのかどうか、それを今聞きたかったのです。

○商工観光課長(作田豊明君) お答えします。

今、この施設は村長を中心に、慎重指導により管理運営、また業務割り振り、それと勤務状況を決めていただきましてやっていきたいと思います。

○6番(田上 忍君) では、村長を中心として、村長が一番の責任者ということで動いているということですね。

あと、それから緑の村の化石ひろば、これについては、入場料さえ払えば無料で使えるということでしょうか。

○商工観光課長(作田豊明君) お答えします。

わくわく広場です、化石体験場です、これにつきましては、団体の予約を受け付けてまして、今石のほうも、常時その体験をやる際に化石を持ってきておりますので、そのときに使用料、体験料を払ってもらってやりたいと。そうすると入場料は別と考えています。

○6番(田上 忍君) 体験料というのは、歳入に入っているのですか。

○商工観光課長(作田豊明君) 体験料につきましては、観光協会の化石体験教室に合わせまして、やっていこうと思っています。入場料のみで考えています。

○6番(田上 忍君) あと、ここの緑の村に個人で来て入場される。そこに来た方が、ああ、ここに化石ひろばが、何か化石発掘だけでけんかなという場所があるなと思って、そこでぼっとやりたいと思ってもできないということですか。

○商工観光課長（作田豊明君） 今のところ、昨年からやっておりますけれども、個人的には受け付けはやらないということで、団体のみ受け付けということで今考えています。今後、要望があれば、それも常時行われるように取り組みたいと思っています。

○6番（田上 忍君） 私も一度ここで子どもたちを連れて化石発掘体験をやりました。物すごく子どもたちは喜ぶんですよ。そうやってせっかくそこにあるのに、緑の村に遊びに来ただけで、化石発掘体験場があるのに利用できないと。もうちょっとサービスの観点からその辺は考えてほしいなと思います。だから、常時、いつでもここに来た方は常時できますよということができるように、今回、受付業務とか、いろんなことを観光協会に委託されます。そして、化石発掘体験を観光協会に今お願いしているということなので、もう同じ団体が受けているのだから、何かもっと観光協会も考えてもらって、そこに遊びに来た人たちが喜んで帰れるような方策を考えてほしいと思うのですが、その辺はどう思いますか。

○商工観光課長（作田豊明君） 加速化交付金で2カ所造っています。この施設につきましても、恐竜博物館と連携により化石発掘体験を、去年7,000名のお客様を迎え入れてこちらで行っておりますので、そのお客様を上を上げて、ぜひ体験を経験していただきまして、興味を持っていただきたいと思っています。

○6番（田上 忍君） それでは、今のは団体になるのでしょうか。だから、そこにたまたま来た人も体験できるような、そういう環境を整えてほしいなと思うのですよ。そういうのはどう思われますか。

○商工観光課長（作田豊明君） 先ほど申しましたように、今後、町としては整ってはおりませんので、委託された観光協会と一緒に、体験できるような体制をとっていきたいと思っています。

○5番（福永 啓君） 先ほどドームハウスの稼働率を近隣に合わせて、近隣を見て、25から30程度、というふうにして予算が出たとおっしゃっていました。これは料金だけを、宿泊料金です。このシーズンごととか平日ごとですとか、そういうのっていうのは、ある時期、今現在春シーズンでも、例えば連休のど真ん中でも、梅雨の真ん中でも、2月とか寒いときの平日でも一緒ですよ。そういうことって一般的に実はあり得ないことなのですが、そういうのは、今度移管後、移管先の判断で、それは変えたりとか、そういうことはできるようにするのでしょうか。

○商工観光課長（作田豊明君） お答えします。

あくまでも、公的施設としまして、地方自治法第244条の公的施設の決まりがございますので、それに準じて、私たちもやろうという去年やりましたけれども、なかなかその問題はクリアできなかったということでもありますので、ぜひ1年間はこの施設でがんばりたいと思います。

○5番（福永 啓君） 宿泊施設として、私は旅行好きなので、皆さんも好きな方いらっしゃるかと思いますが、そういう宿泊施設というのは本当にあるのでしょうか。しかし、それは宿泊施設としては体をなしていないです。というのは、一応条例には町長の判断をもってというのがあるので、私はその梅雨の期間とか、期間をできると思うのですよ。これは、できる、できないではなくて、そういう宿泊施設はそういうものですよ。でなかったら25%上がらないのですよ。そういうことは委託先とともに検討していただいて、何とか条例の見極めじゃないですけど、通ってやらないと、それはもう必ずひとつぜひよろしくお願ひしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○商工観光課長（作田豊明君） 今年は委託を行う上で、来年の指定管理者に向けて取り組んでいきたいと思っています。

○5番（福永 啓君） 来年ということは、来年度のことですよ。平成31年度のことですか。私は31年度から、そういう1年もったいないですから、これはできる工夫があると思います。この時期を指定するとか、この時期を指定するとか、3つぐらい指定できますので、そういう、よろしく、来年度までやらないともったいないです。

○10番（沖 徹信君） 緑の村の場合、ドームハウス、キャンプ場のトイレ、マウンテンバイクのコース、いろんなことがそれに対して、平成31年度がスタートだと思います。去年の平成30年度の予算というか収入です。入場料は平成29年度はいろんなことで下がっていた。そういう形で、平成31年度の予算はたった4万2,000円の増、そのくらいで何のやる気があるのですか。これだけの施設が揃った、去年の倍の売上を目指しますぐらいのやる気にならんなら、何でたあだドブに金を棄てるのと一緒ですよ。やる気が伺えない。どうですか。

○商工観光課長（作田豊明君） 今年のドームの稼働率が、どこでも20%から25%ということだったのですけれども、うちとしては年中続いて25%いきます。今、沖議員が言われたように、施設に予算をつけていただきました。今後、MTB、またマラソンの復活とい

うことで、トレイルランも計画しています。しかし、予算計上的には少しの上昇しかありませんけれども、これでまずもって、天候にも左右されますので、これで持っていきまして、集客を求めていきたいと思っています。

○10番（沖 徹信君） 入場料というのは天候に左右される、それはわかります。左右されて、前年度を大分割れた年よりも4万円上がっているということでしょう。そういう意味ではないのですか。私の思うのは、そのくらいの金額の増額。ドームハウス、マウンテンバイク、キャンプ場、いろんな整備ができましたけれども、どういう方向性で今後進んでいきたいと思っていられるのですか。方向性、緑の村の。

○商工観光課長（作田豊明君） お答えします。

これは、キャンピングエリアを新しくやりまして、吉無田に定住、少しでも長く滞在していただくような形で思っております。今までのキャンプ場の施設が35年も経ちまして、老朽化して厳しかったということで、このドームハウスも心機一転しまして、5棟造っていただきました。MTBも今度4月にオリンピックの予選大会をやることになりまして、いろんなお客さんにPRをして吉無田の知名度アップにしたいということで考えています。

予算的には、今、平成29年度の予算が大体400万円ぐらいの入場料の費用だったんですけれども、今年はドームのおかげを持ちまして、ドームで1,000万円超えたという使用料が上がっております。

○10番（沖 徹信君） これだけ整備してもらったなら、金をつぎ込んでもらったのだから、一般会計の繰り入れはもう要りませんと、そのくらいの気持ちでやってもらわな、そのためには何をするかですよ。何をするかで、一番金の要らないごたることは、夜の星空観察をすればいいわけです。何かそういうとを一本作って、10時なら10時には入場関係がどうかこうだかと言うかもしれませんが、そこら辺は、やはり自分たちで考えて、あれだけの芝生があるでしょう、上に。ここで寝ころんでくださいと。何分頃に電気を消します。星空はきれいですよと、それがメインになるのですよ。金を突っ込まない収入ゼロはあり得ると。それが商売の原理なわけですよ。金ばかり幾ら突っ込んだですか、もう。キャンプ場のトイレを改正せないかんけんする。それなら、キャンプ場はどうしますか。これだけの収入というか、支出した時点で、どれだけの収入が上がるかということ。そこら辺を考えて、自分たちがここにタッチしたときには何を改革した、私はこの課に何年おりましたというのはいっちょん自慢にはならん。私が1年おつたと。1年おつたときに、

私はここをこういうふうに変更しましたって、一生自信持って言える課長になってくださいよ。町長は、どう思われますか。

○町長（藤木正幸君） 言われるとおりで思っております。ここにやはりお金をつぎ込んで吉無田の整備をしてきました。ここにお客様が来れるように、これはここだけでできるものではありません。民間と一緒にしなければできないものであります。公民一体となって当たっていきたいと思っています。

○10番（沖 徹信君） ドームハウスの食材も一緒ですよ。いろんなうわさが立っている。それは違います。私たちはこういうことで自信を持って食材は納めますと。そこら辺を確実に自信もって来場者の方に言える食材を納めてくださいよ。

○議長（藤川博和君） ほかにありますか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤川博和君） 質疑なしと認めます。

討論を行います。討論はありませんか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤川博和君） 討論なしと認めます。

これから、議案第116号、「平成31年度御船町緑の村運営事業特別会計予算について」の件を採決します。

お諮りします。

本件は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者 起立〕

○議長（藤川博和君） 起立多数です。したがって、本件は原案のとおり可決されました。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第6 議案第117号 平成31年度御船町公共下水道事業特別会計予算について

○議長（藤川博和君） 日程第6、議案第117号、「平成31年度御船町公共下水道事業特別会計予算について」の件を議題とします。説明を求めます。

○環境保全課長（緒方良成君） 御船町公共下水道事業特別会計について説明いたします。7ページをお開きください。

まず、歳入からです。1款、分担金及び負担金。1項、負担金。1目、受益者負担金638万1,000円。

2 款、使用料及び手数料。1 項、使用料。1 目、下水道使用料 1 億 2,592 万 7,000 円。

2 項、手数料。1 目、総務手数料 30 万 1,000 円。

4 款、繰入金。1 項、一般会計繰入金。1 目、一般会計繰入金 1 億 9,949 万 5,000 円です。

8 ページをお開きください。5 款、繰越金。1 項、繰越金。1 目、繰越金は存目です。

7 款、町債。1 項、町債。1 目、土木債 8,500 万円、これは、資本費平準化債です。国庫支出金は廃款です。

続きまして、歳出です。1 款、総務費。1 項、総務管理費。1 目、一般管理費 3,454 万 3,000 円です。主なものは、10 ページをお開きください。27 節の公課費、消費税納付金です。1 款、総務費。2 項、浄水センター管理費。1 目、浄水センター管理費 7,315 万 2,000 円です。主なものは 11 節、需用費の光熱水費、これは電気代になりますが、1,495 万 1,000 円。それから、13 節、委託料の浄水センター維持管理業務委託費は 4,357 万 4,000 円です。

2 款、施設整備費。1 項、公共下水道費。1 目、公共下水道建設費 711 万 3,000 円。主なものは、15 節の工事請負費、これは公共污水枘設置工事の 600 万円です。

3 款、公債費。1 項、公債費。1 目、元金 2 億 4,739 万 3,000 円です。これは、地方債償還金の元金です。2 目、利子 5,440 万 4,000 円。これは地方債償還金利子になります。

12 ページをお開きください。4 款、予備費。1 項、予備費。1 目、予備費 50 万円です。

以上、説明を終わります。

○議長（藤川博和君） 質疑を行います。質疑はありませんか。

○4 番（中城峯雄君） 歳入で、一般会計からの繰入金が 2,400 万円、地方債、借金が 1,500 万円しております。それに対して、歳出で、施設整備工事が 3,600 万円計上していますということで、施設整備工事は污水枘が設置工事は減ったということです。この污水枘設置工事は完了したのですか。

○環境保全課長（緒方良成君） お答えします。

歳出で減少していますが、これはまだ施設整備の都市的整備です。これは平成 31 年度に整備をします管渠のところの整備費がまだ入っておりませんので、6 月の補正で上げるようにいたします。

○4 番（中城峯雄君） 6 月には上がってくるわけですね。

○議長（藤川博和君） ほかに質疑はありませんか。

○10番（沖 徹信君） これは、まだ本当、疑問的な何ですけれども、大型商業施設が来るためには、平成33年の5月という形になっていますよね。そういう中で、平成31年度中にはある程度下水道も整備しとかななくてもいいのですか。まだはつきりわからんからできませんと言われればそれまでだけど、もう平成33年5月は開店というときには、もう使用できるようになるとかないかと思うわけです。これは水道も同じですけれども、そこら辺はいかがですか。

○環境保全課長（緒方良成君） 大型商業施設に関しましては、平成31年度から測量設計に入りたいと思っています。

○議長（藤川博和君） ほかに質疑はありませんか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤川博和君） 質疑なしと認めます。

討論を行います。討論はありませんか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤川博和君） 討論なしと認めます。

これから、議案第117号、「平成31年度御船町公共下水道事業特別会計予算について」の件を採決します。

お諮りします。

本件は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者 起立〕

○議長（藤川博和君） 起立多数です。したがって、本件は原案のとおり可決されました。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第7 議案第118号 平成31年度御船町情報通信基盤施設運営事業特別会計予算について

○議長（藤川博和君） 日程第7、議案第118号、「平成31年度御船町情報通信基盤施設運営事業特別会計予算について」の件を議題とします。説明を求めます。

○総務課長（吉本敏治君） それでは、情報通信特別会計について説明いたします。予算書の6ページをお願いいたします。

まず、歳入です。1款、分担金及び負担金。1項、負担金。1目、加入者負担金596万5,000円です。2目、撤去工事負担金23万2,000円。3目、移設負担金20万2,000円。

2 款、財産収入。1 項、財産運用収入。1 目、財産貸付収入6,345万1,000円。

3 款、1 項、1 目、繰越金、存目の1,000円を繰り越しております。

4 款、諸収入。1 項、雑入。1 目、雑入、これも存目の1,000円を計上しています。

続きまして、7 ページです。5 款、繰入金。2 項、一般会計繰入金。1 目、一般会計繰入金537万1,000円。

次に、8 ページです。歳出に移ります。1 款、総務費。1 項、総務管理費。1 目、一般管理費7,472万6,000円です。主な支出につきましては、13 節、委託料、施設保守委託料、引込工事設計委託料等合わせまして3,252万3,000円です。それから9 ページです。15 節、工事請負費として2,689万9,000円を計上しております。

次に、2 款、予備費。1 項、1 目、予備費50万円です。

○議長（藤川博和君） 質疑を行います。質疑はありませんか。

○2 番（森田優二君） まず、歳入のところ、これは加入者負担金というのが引込の工事代ということですか。これは幾らですか。

○総務課長（吉本敏治君） 予算説明書の1 ページになります。加入者負担金として596万5,000円。大体ここに記載しておりますとおり120件程度を見込んでいるところです。

○2 番（森田優二君） 次に、2 番は財産貸付収入ですか。これは1 件当たりの利用料ということと考えていいのですか。

○総務課長（吉本敏治君） 県から引き込みして使用しておられる方、まずは、B B I Qにお支払いをいただいております。1 カ月幾らということ。そのうち、貸付をしている事業者から、この説明書の一番下になりますけれども、施設貸付収入として2,646円、それから後の半年分は2,695円ということ、利用見込み人数を掛けたものを財産収入として計上しているということになります。

○2 番（森田優二君） ということは、うちのほうに直接使用料が来て、そしてB B I Qに払うのではなくて、B B I Qに払ってもらってから、うちがその分貸付料としてもらっていくという考えですか。それでいいですかね。ちょっとそういうやり方でいいのかなと思ったのですけれども。

それともう1 つ、繰入金がまた500万円ほど出ております。これについて、説明をお願いします。

○総務課長（吉本敏治君） 繰入金については、歳入のところの2 ページで、537万1,000円を

平成31年度は計上しております。前年の当初予算で832万9,000円ほど計上しておりましたので、300万円程度は平成31年度が低くなっているということになります。これは全体の特別会計の歳入の全体、それから基本的には歳出に不足する分を一般会計から補ってもらっているという格好になります。

平成31年度から職員1名、すべてをこの業務に当たらせるということで人件費をここに計上しております。しかし、今回は貸付収入が増えたということもありまして、平成31年度においてはこの530万円程度の繰り入れで賄えるということになります。

○2番（森田優二君） 何でこういう質問をしたかということ、結局、4年前、私が議員になったとき聞いていたのが、この計画の中では、大体1年間1,000万円ほどの黒字、その黒字の分を基金として積み立てをして、そして10年後基金の一部解体というか、するような話を聞いておりました、ところが、結局、今の時点で赤字なんですよね。そこあたり、もう1つ言わせてもらおうと、もともとの計画の中に職員分が入ってなかった。職員分が入っていない特別会計はないだろうということで、これも私が何度か質問して、ようやく平成30年度からは、職員1名分は入ってきたのですけれども、職員1名分はもう必ず赤字になるということはわかっておりました。そこらあたり、もともとの計画というのは、正当な計画を立ててあったのかと私は思うのですよ。そこらあたり、町長も町長になられて一番初めにこの事業計画書を見られておると思うのです。その事業計画書を見て、私は赤字になると思っていたのですけれども、そこらあたりどういうふうに思われたか、ちょっとお聞かせ願います。

○町長（藤木正幸君） この事業計画書を見てみまして、私は民間から来たものですから、民間で事業計画書を作っていたほうだったのですけれども、その中において、見込みを大体立てながら事業計画書を作っていきます。その中において、この見込みという部分がやはり公と民では大分違うと思うわけです。もしこの事業が民間であればとっくに倒産しているということでもあります。しかしながら、公だったら繰入金等、公の力を使ってしていきます。それはそれでわかるのです。やはり、このどうしても町に必要だったと。赤字を出すかもしれんけれども、そのところはカバーしながら持っていかなければいけないという意味はわかりますけれども、しかしながら、事業計画段階でいろんな可能性というのが欠けていたのではないかと、事業計画の中では思っております。その可能性というのがやはり予想の加入件数というのを下回ったらどうなのかという部分があったりとか、今回の

ような災害があったりとか、そういったときに、どういったふうに持っていくかという部分があってくると思います。

しかしながら、一番問題は、いろいろなところを調べてみましたら、公設公営というところが一番ネックになってきていると私は思っています。またBBIQの公設公営といったら、九州では御船町と福岡県の添田町の2カ所しかないということで、やはりお互いにこの2町が厳しい状況にあるということを考えます。そういったところは、もうできたものは仕方ないですので、このシステムをどうやって活かしていくか。今後どうやって歳入をなくすことができるのか。また今度、切り替えの時期があります。切り替えにかけて私たちができる範囲のことをして行って、町民に負担がかからないように、この公共物を守っていかなければいけないと私は思っています。儲からんからこれを切って全部廃止しようということはもうできないわけですから、その辺は今後私たち庁内頭を使いながら考えていきたいと思えます。

○2番（森田優二君） 単にこれは、このままの状態では赤字が出る。ただ、赤字が出るからどうのこうのではないのですよ。もう1つは、今はBBIQは工事代はよそのは要らないのですよね。御船町は約4万円の工事代ば出さなければいかんとか、そういうのがあります。やはり今後は、ここをきちんと精査をしながら、今後どうやっていくのか、それは平成31年度、きちんと話というか、前向きに検討していただきたいと思えます。

○5番（福永 啓君） まずは基本的なこととして、現時点の加入者数は何人でしょうか。

○総務課長（吉本敏治君） 平成30年度の3月は全部終わってはいませんが、2,084人となっています。

○5番（福永 啓君） 当初は1,600人のみだったのですね。ここ何年かで本当に努力されて、2,080と、もう2,100人ですね。近くまで持ってこられた、大変この努力には敬服いたします。しかし、さっき森田議員が言われたみたいに、こういう状況です。これはやはり、売却とか譲渡とか、そういうのを図ってするしかない。もうやめたというのはいないことではないですけど、それはあまりにもしようがないです、無責任じゃないかと。手を挙げてもうやめたらできないわけですから。そうすると、ずっと御船町の町民に不利益をつけたまま続けるか、売却か譲渡かしかないわけで、やはり売却譲渡というのが一番の道だと思うのですが、それで進むという説明を受けてまいりました。今、交渉の現状、どのようになっているのでしょうか。

それと、10年というのが1つの目安とおっしゃっていました。補助金返還等が、これは補助金で作っていますから、いっぱいですね。10年経ったら補助金返還なしに売却譲渡というのは制度上できるものなのでしょうか。その2点お願いします。

○総務課長（吉本敏治君） まず、売却からというか、譲渡の話は、総務省総合通信局との協議は行っております。昨年も、まだ御存じのとおり開始してからまだ10年は経っていません。平成33年の3月31日まででようやく10年ということになります。補助金返還の条件というのはあくまでも無償譲渡ですという、これは総務省の見解です。無償譲渡でやれば補助金の返還というのは出てきませんと。ただ、それを前にというのはできないわけです。10年というのはやはりクリアしないといけないということになるわけです。

ですから、ではそれまでに何かできることはありますかと、町として方針を決めたら何かできることはありますかということについて、去年協議をしております。いろいろ手続きが最終的に譲渡するということに至るまでの間にいろいろな手続きがもちろん出てきます。最終的に、まず町の方針として、議会に諮って無償で譲渡しなければなりませんので、議会の議決を、町の団体の意思を、そこで表明する必要がある。ですから、最終的に団体の意思は、町議会の議決によって決まるということになります。

それまでに今できることとして、まず譲渡をしようとする財産の範囲、内容です、そういったものをまず確認しなければならない。それから、譲渡内容をどういうふうにするかという仕様も考えていかなければならない。これはその都度、総務省の通信局とも協議はしていきたいとは思っています。

それから、やはり公募案を作成する必要があるだろうと。その中で、手を挙げていただいたところというふうになろうかと思っています。その公募案を策定して、議会の承認を得てから公募の手続きということになろうかと思っておりますので、それは平成32年度中、ですから33年の3月の議会での議決あたりでいいのではないかとは思っています。ただ、最終的にはまだいつ頃か総務省の通信局と協議をしていきたいと思っております。

○5番（福永 啓君） 確認なのですが、譲渡しようとする財産の中には、減価償却が10年以上のものも多々含まれております。それについては、そうして議会が認めて譲渡をするのであれば、補助金の返還は国として求めることはないという感触をお持ちなのでしょうか。

○総務課長（吉本敏治君） はい、そういうことになります。

○5番（福永 啓君） 本当に、今はまだ、随分町として一般財源は何千万円か入れました。

しかし、やはり10年以上持っている、基地の交換1億円以上ですよ、何億円ですよ。線の交換何億円ですよ。それに対するものは全く今はないわけなのです。それを保持していくことは、もう全く不可能ですよ。それに対しましては、今状況を聞いてちょっと安心したところです。あとはもうやるべきことは2,084人まで伸ばされました。これが伸びれば譲渡も楽になります。そう思います。確固たる意思を持って、町民のために頑張りたいと思います。

○議長（藤川博和君） ほかに質疑はありませんか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤川博和君） 質疑なしと認めます。

討論を行います。討論はありませんか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤川博和君） 討論なしと認めます。

これから、議案第118号、「平成31年度御船町情報通信基盤施設運営事業特別会計予算について」の件を採決します。

お諮りします。

本件は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者 起立〕

○議長（藤川博和君） 起立多数です。したがって、本件は原案のとおり可決されました。

~~~~~ ○ ~~~~~

日程第8 議案第119号 平成31年度御船町水道事業会計予算について

○議長（藤川博和君） 日程第8、議案第119号、「平成31年度御船町水道事業会計予算について」の件を議題とします。説明を求めます。

○環境保全課長（緒方良成君） 御船町水道事業会計予算について説明いたします。4ページをお開きください。まず、収益的収入及び支出からです。収入です。1款、水道事業収益。1項、営業収益。1目、給水収益2億6,895万4,000円です。水道料金になります。2目、その他の営業収益753万4,000円です。これは水道加入金等になります。

2項、営業外収益。2目、受取利息及び配当金11万2,000円です。これは預金の利息です。4目、長期前受金戻入3,064万1,000円です。6ページをお開きください。5目、引当金戻入225万円です。6目、雑収益315万8,000円です。これは、下水道事務処理補助金で

す。

続きます。支出。1款、水道事業費用。1項、営業費用。1目、原水及び浄水費3,583万6,000円です。主なものは、8ページをお開きください。8節の動力費、これは電気代等になります。各施設の電気代等が2,084万9,000円、それから10節の負担金及び補助金の吉無田水源分水負担金が330万円です。2目、原水（配水）及び給水費1,458万8,000円です。主なものは、4節、修繕費の量水器取替825個、173万1,000円、配水池施設及び送配水管修繕費が700万円。10ページをお開きください。5節、路面復旧費176万円です。3目、総係費6,466万9,000円。主なものは、人件費と、12ページをお開きください。14節、委託料で、メーター検針委託料が633万円、水道監視装置保守メンテナンス業務委託が248万4,000円、水道事業経営戦略策定支援業務が378万円です。14ページをお開きください。4目、減価償却費1億3,618万3,000円です。これは、水道施設減価償却費になります。5目、資産減耗費500万円。固定資産除却費です。

2項、営業外費用。1目、支払利息及び企業債取扱諸費3,025万7,000円です。これは企業債償還金利子になります。2目、消費税842万円です。

3項、特別損失。2目、過年度損益修正損、存目です。

4項、予備費。1目、予備費1,000万円。

16ページをお開きください。続きます。資本的収入及び支出になります。まず、収入です。1款、資本的収入。1項、国庫支出金。1目、国庫補助金59万4,000円。これは、平成28年発生の災害復旧事業の工事補助金になります。

続きます。支出です。1款、資本的支出。1項、建設改良費。1目、配水工事費118万8,000円です。これは、2節の工事請負費、北田代地区送配水管災害復旧工事費になります。2目、機械及び装置等購入費239万2,000円。これは、量水器の購入費です。

2項、企業債償還金。1目、企業債償還金1億1,201万8,000円。これは、企業債償還金元金になります。

○議長（藤川博和君） 質疑を行います。質疑はありませんか。

○4番（中城峯雄君） 水道事業収入金が1,300万円減少しておりますけれども、これは地震による給水減少の減ですか。

○環境保全課長（緒方良成君） お答えします。

これは、地震にもよりますけれども、年々給水人口、やはり御船町の人口も徐々に減

ってきております。その給水人口の減少で昨年よりも減っているということで、使用料を減にしています。

○4番（中城峯雄君） 結構大きいですけどね、1年間に1,300万円の減というのは。はい、わかりました。それと現在、高木地区です。水道管の布設工事、取替工事をやっていました。今、下高野地区をやっていますよね。来年度は甘木ということを知っていますが、その予算はどこに上がっていますか。

○環境保全課長（緒方良成君） お答えします。

今回の当初予算には、庶務的支出の経費はまだ出しておりません。6月の補正で行うかと思っております。

○4番（中城峯雄君） わかりました。

○議長（藤川博和君） ほかに質疑は。

○6番（田上 忍君） さきの議会で、水越地区の2カ所から陳情が上がっていたと思います。地区水の水について、安全で安心な水を提供ということで、町は考えているということだったと思いますが、今回予算書には載ってないと思いますが、これについての進捗は、今どうなっていますか。

○環境保全課長（緒方良成君） お答えします。

まず、水越の馬立地区、それから粒麦地区になりますが、この地区については、まだ地区水道になりますので、水道ではまだ計上というのはできません。あくまでも地域の事業になりますので。それから今回環境衛生係で水質検査を行いました。今のところ、水質に関しては何ら異常はないという検査結果が出ています。ただ、これは水質というのは、濁り等に関しましては、今後雨等が降りますとやはり濁りは出てまいりますので、その施設につきましては、地元と今から検討をしていながら、これは地区水道になりますので、地元の負担も出てまいります。高額な施設を造れば地元もかなり負担が高額になってまいりますので、最適な施設を検討しながら、少しでも安価になるよう、地元と協議していきたいと思っています。

○6番（田上 忍君） 早く、ずっと雨が降っても安心して安全な水が提供できるようにお願いしたいと思います。ただ、今地区水道ということで、これは地区がお金を出さなきゃいけないというのもあります。この間の陳情の中では、安心・安全な水を提供するということ、あとほかの水道と同じように、料金を払っていいから、その代わりにできないかとい

うのも含まれていたと思います。その辺というのも検討はしているのですか。

○環境保全課長（緒方良成君） この前の陳情では、地元、町での管理をとすることはあったのですが、これは町の水道になりますと、これは上下関係等も必要になります。それから経営に関しても、その源というものが果たして町の管理になるか、そういうもろもろな検討もしていかなければなりませんので、早急な結論というのは非常に難しいのだと思っております。

○6番（田上 忍君） ぜひ、地元と相談して良い方向に持って行ってほしいと思います。

○議長（藤川博和君） ほかに質疑はありませんか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤川博和君） 質疑なしと認めます。

討論を行います。討論はありませんか。

〔「ありません」と呼ぶ者あり〕

○議長（藤川博和君） 討論なしと認めます。

これから、議案第119号、「平成31年度御船町水道事業会計予算について」の件を採決します。

お諮りします。

本件は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者 起立〕

○議長（藤川博和君） 起立多数です。したがって、本件は原案のとおり可決されました。

以上で、本日の日程はすべて終了しました。

これで、散会いたします。

~~~~~ ○ ~~~~~

午後2時54分 散会